

【結果速報】

COVID-19 感染症に関連する緊急調査

～言語聴覚療法対象者と言語聴覚士・スタッフを守るために～

一般社団法人 日本言語聴覚士協会

アンケート調査の目的

- 日本言語聴覚士協会では臨床現場における現状の情報を収集することにいたしました。
- 今回の調査は、
言語聴覚士の職務状況の把握
COVID-19 感染症対策に関する組織運営の現状把握
を目的としています。

アンケート内容について①

1. 基本情報

- (1)勤務先のある都道府県
- (2)所属施設種類
- (3)COVID-19感染者の受け入れ病床の有無
- (4)勤務施設での立場
- (5)主たる対象障害
- (6)主たるステージ

2. 回答者の個人的な状況

- (1)COVID-19に感染しましたか？
- (2)仕事上での影響
(COVID-19感染の影響以前と比較して)
- (3)生活面での影響
- (4)-a.精神面での影響（業務について）
- (4)-b.精神面での影響（活動自粛について）
- (5)身体面での影響
- (6)医療従事者であることによる差別や偏見

アンケート内容について②

3. 個人の生活において本人の判断で気をつけていること等

4. 所属する施設での対応状況

(1)本件に対する組織体制

(2)個人防護具(PPE)や消耗品などの充足状況

(3)部門の管理

(4)環境の管理

a.言語聴覚療法室

b.スタッフルーム

(5)対象者へ接する際の対応

a.個別の言語聴覚療法場面

b.集団の言語聴覚療法場面

c.訪問の言語聴覚療法場面

d.その他の場面

5. 言語聴覚療法の実践について

(1)言語聴覚療法に実施について

a.<外来患者への対応> **【摂食嚥下障害】**

b.<外来患者への対応> **【言語聴覚障害全般】**

c.<入院患者への対応> **【摂食嚥下障害】**

d.<入院患者への対応> **【言語聴覚障害全般】**

(2)検査の実施について

a.嚥下機能評価

b.音声言語機能評価

c.認知機能検査

d.聴力検査

e.発達検査

言語聴覚療法の実践について（自由記載）

6. 課題や要望

調査について

調査期間：2020年5月11日(付)～2020年5月21日(木)

調査方法：Googleフォーム（アンケート）

回答者数：2,147名

1. 基本情報

1.(1)勤務先のある都道府県

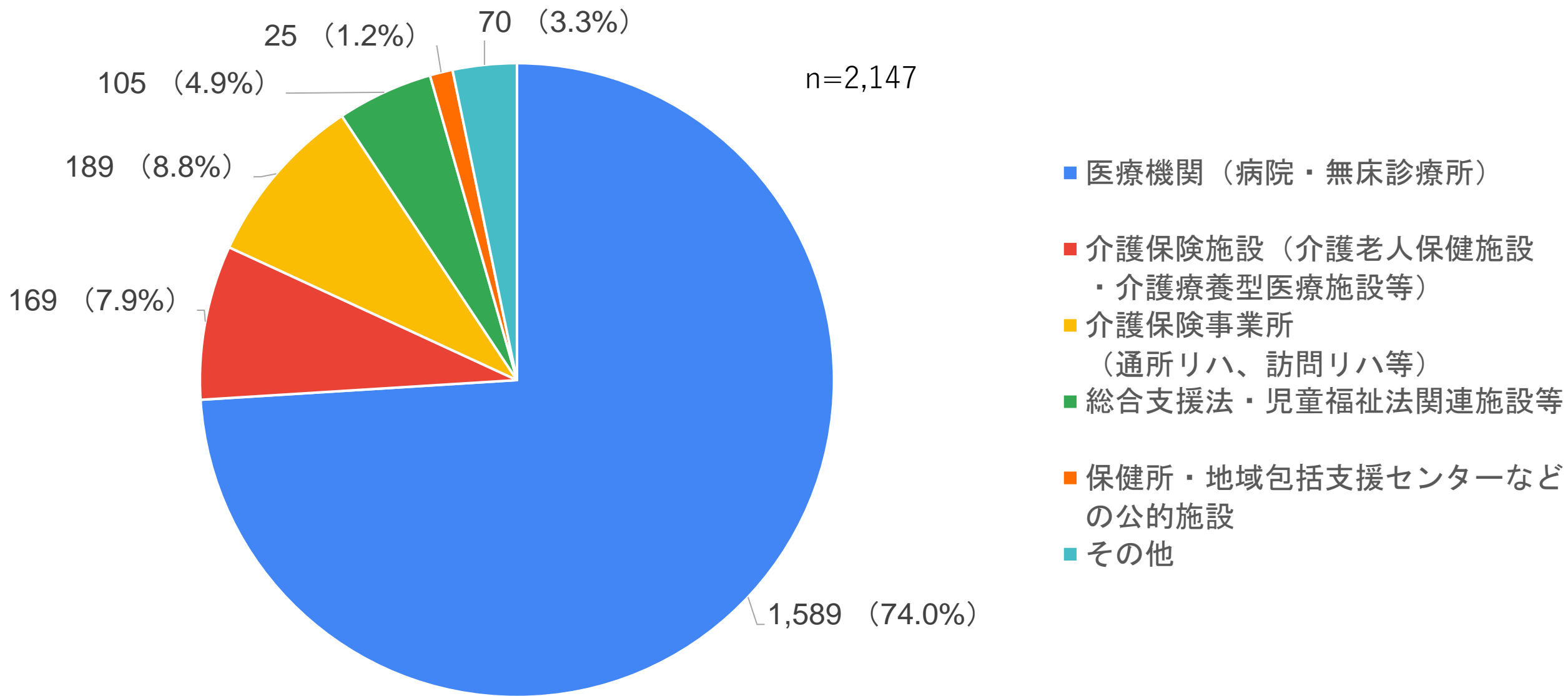
都道府県	回答数
北海道	100件
青森県	6件
岩手県	6件
宮城県	41件
秋田県	25件
山形県	6件
福島県	96件
茨城県	67件
栃木県	22件
群馬県	46件
埼玉県	183件
千葉県	97件

都道府県	回答数
東京都	174件
神奈川県	66件
新潟県	10件
富山県	33件
石川県	48件
福井県	30件
山梨県	68件
長野県	51件
岐阜県	6件
静岡県	23件
愛知県	79件
三重県	6件

都道府県	回答数
滋賀県	23件
京都府	28件
大阪府	87件
兵庫県	99件
奈良県	26件
和歌山県	23件
鳥取県	5件
島根県	29件
岡山県	45件
広島県	48件
山口県	30件
徳島県	6件

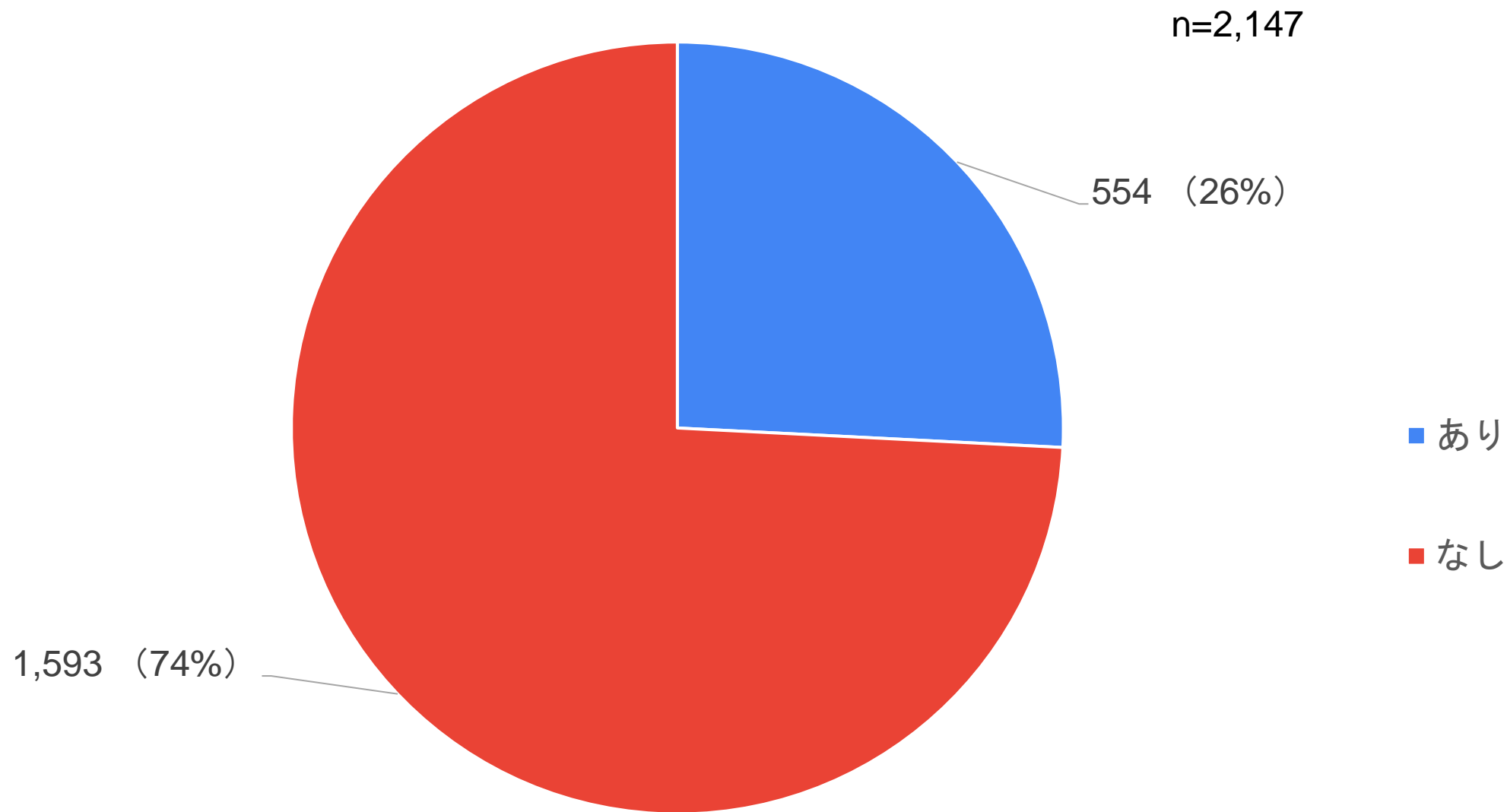
都道府県	回答数
香川県	6件
愛媛県	53件
高知県	14件
福岡県	38件
佐賀県	36件
長崎県	66件
熊本県	46件
大分県	46件
宮崎県	19件
鹿児島県	66件
沖縄県	19件
総回答数	2,147件

1.(2)所属施設



回答者の所属施設は医療機関が74%を占めていた。

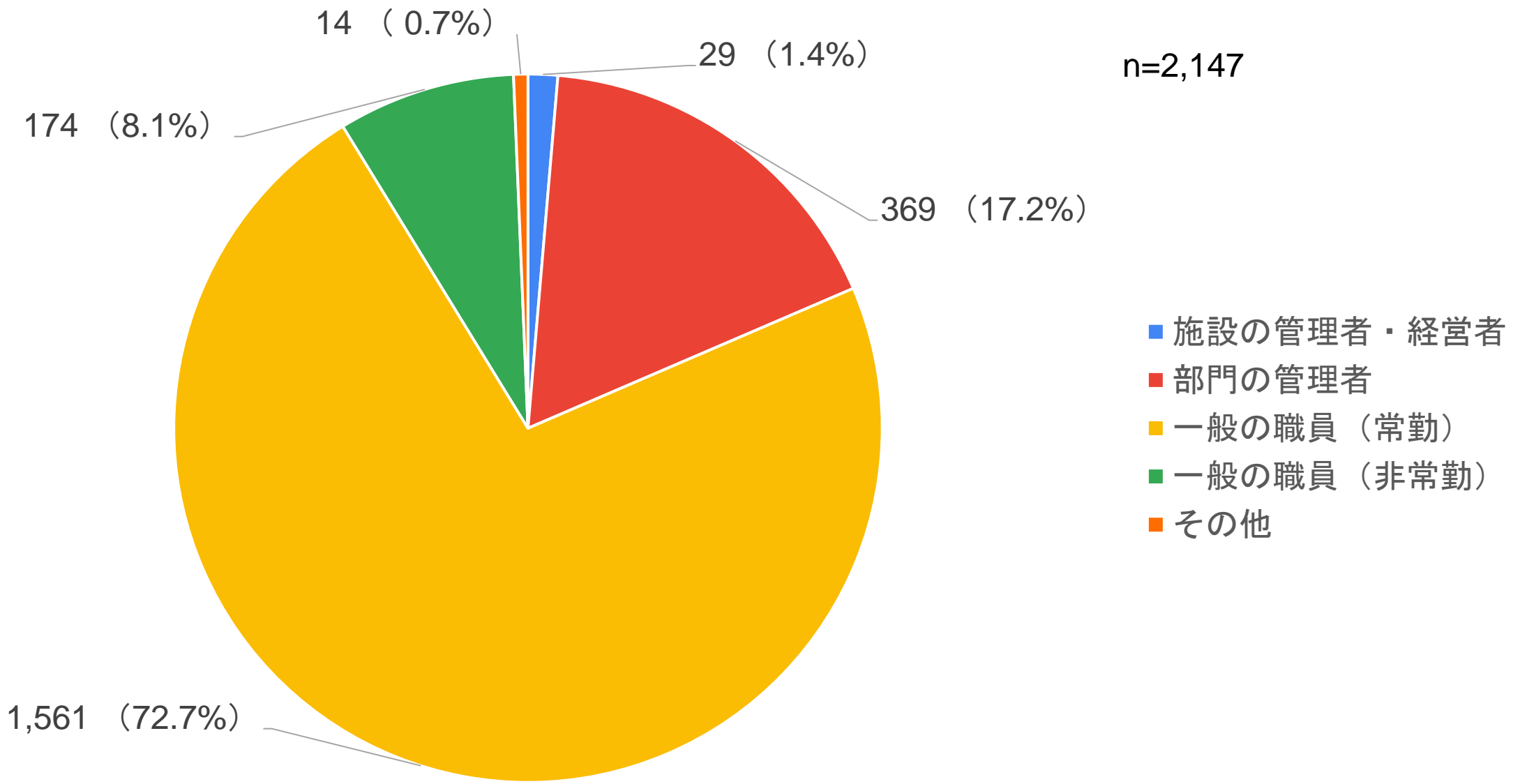
1.(3)COVID-19感染者の受け入れ病棟の有無



感染症受け入れ病棟のある施設は全体の約 1 / 4 を占めた。

1.(4)勤務施設での立場

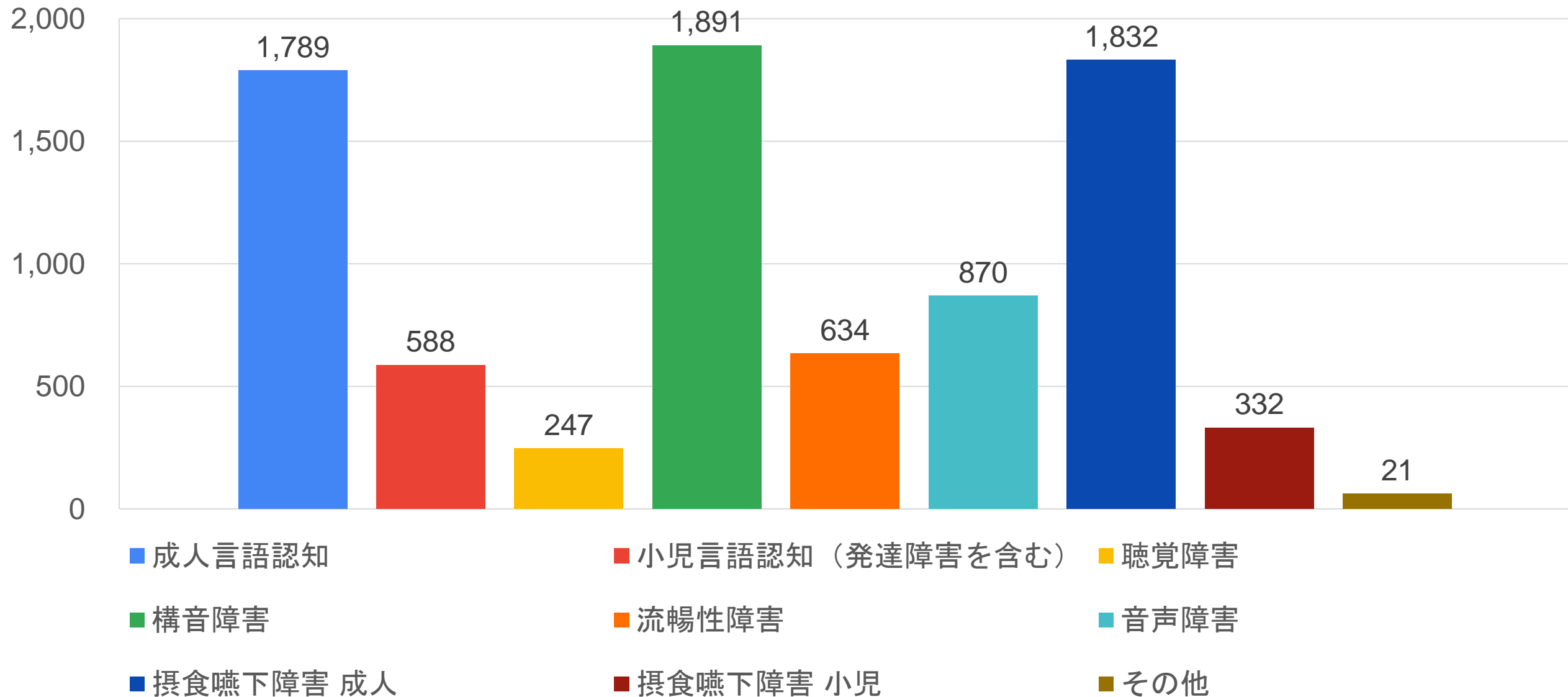
n=2,147



回答者は常勤の言語聴覚士が73%を占めていた。

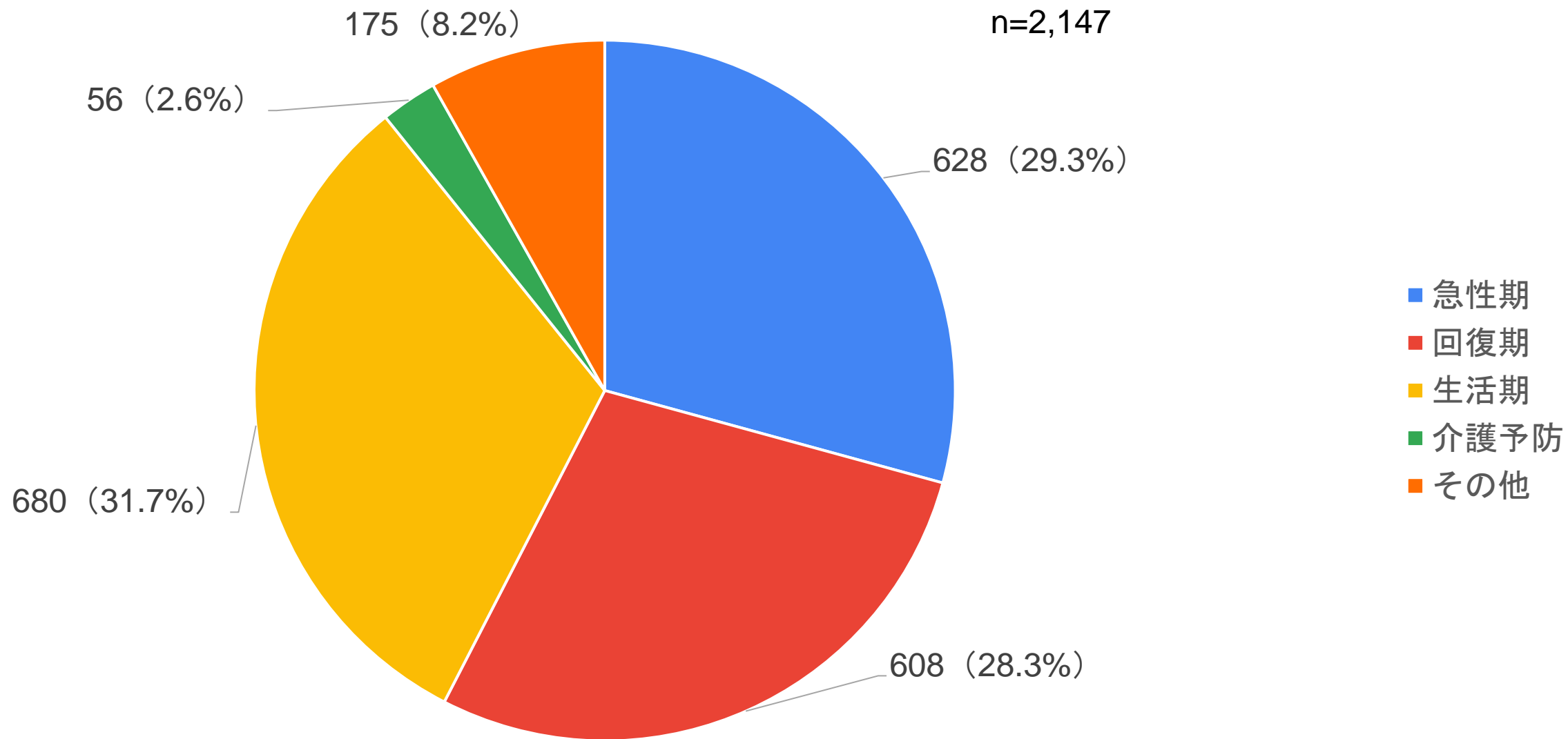
1.(5)対象者の主たる対象障害

※複数回答



主たる対象障害は構音障害が最も多く、次いで、成人言語認知、摂食嚥下障害 成人の順であった。 11

1.(6) 主たるステージ

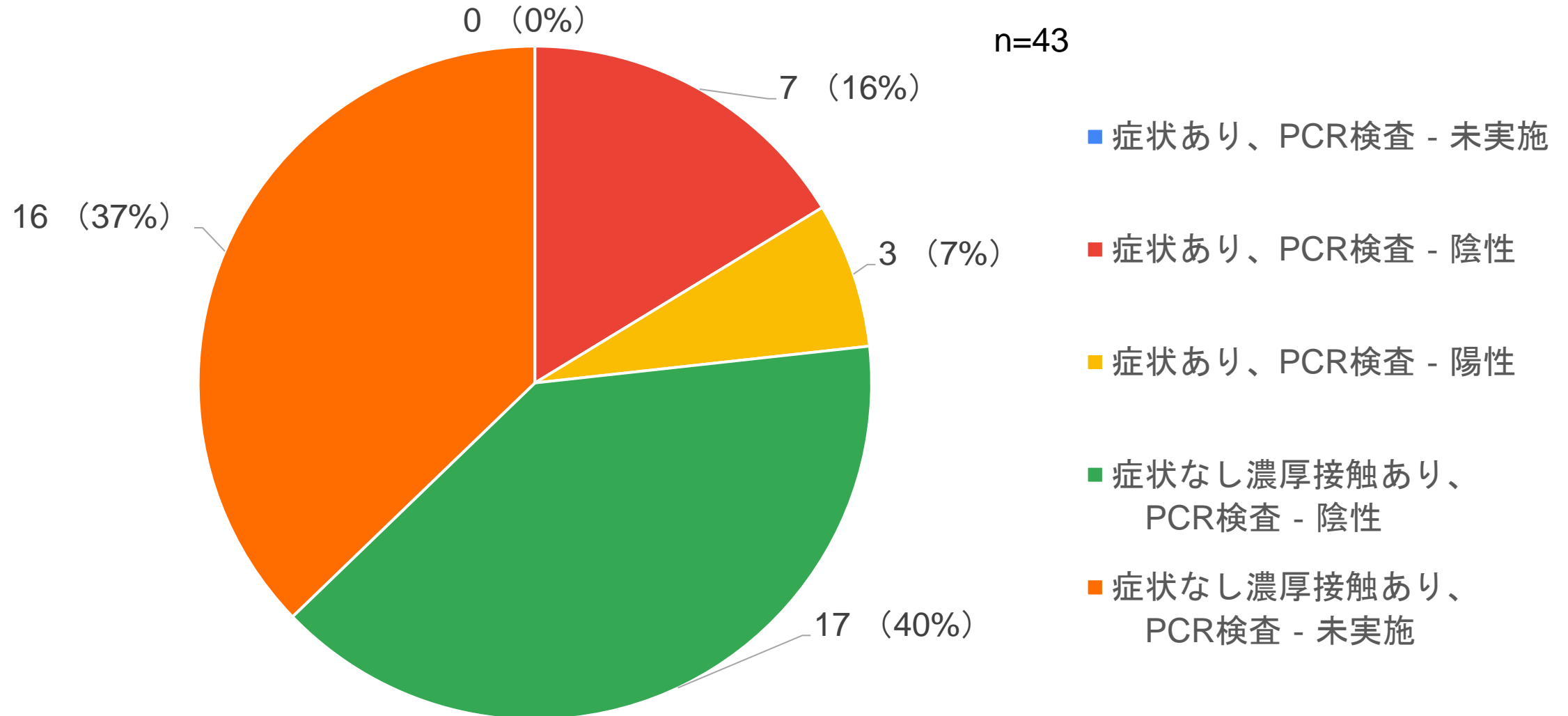


施設のステージは生活期が32%で最も多かったが、次いで多い急性期29%、回復期28%とはほぼ同率であった。

2.回答者の個人的な状況

2.(1)COVID-19に感染しましたか？

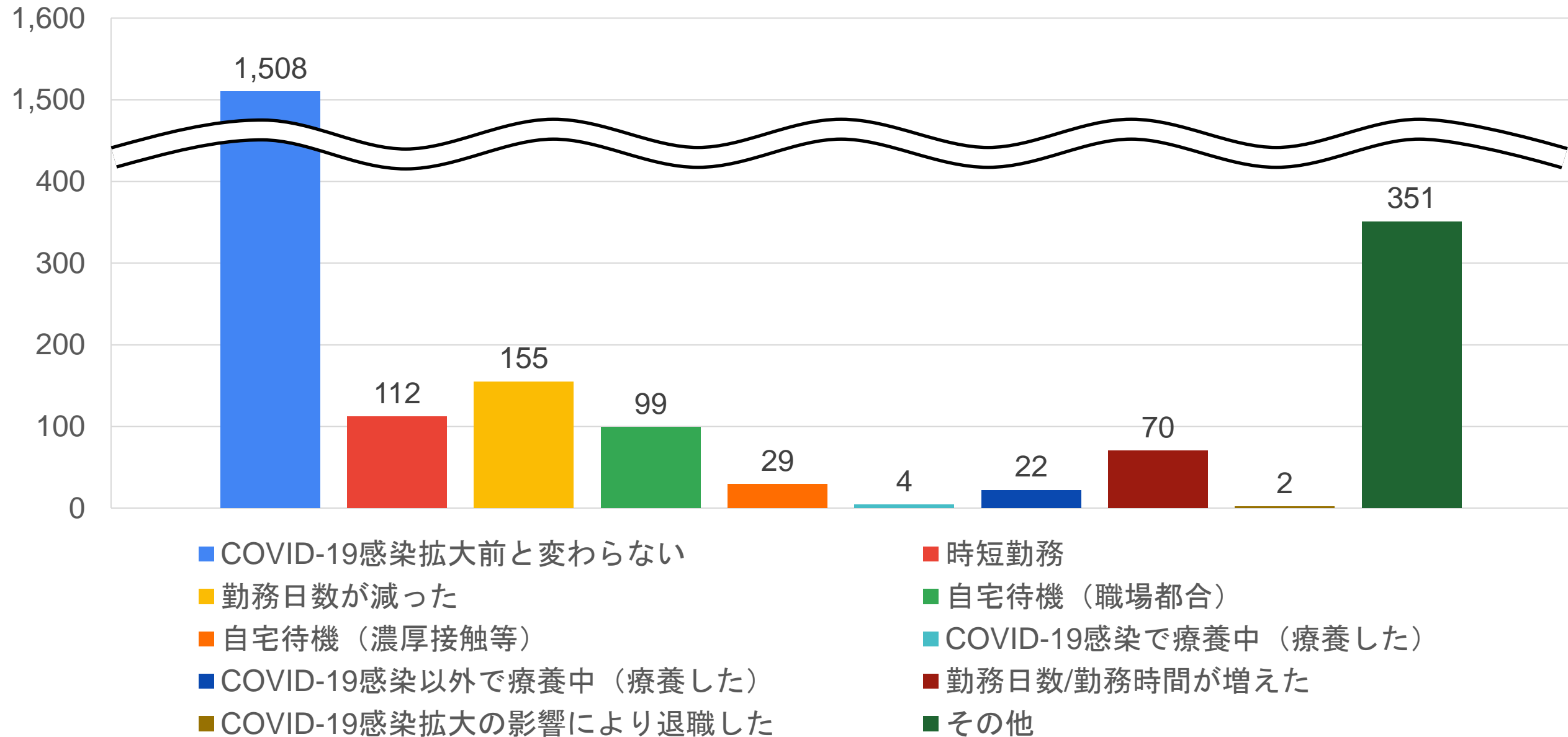
※2,147件のうち、2,104件は感染なしと回答（全体の約98%）



※グラフは感染なしを除いた43件の内訳になります。

2.(2)仕事上での影響（COVID-19感染の影響以前と比較して）

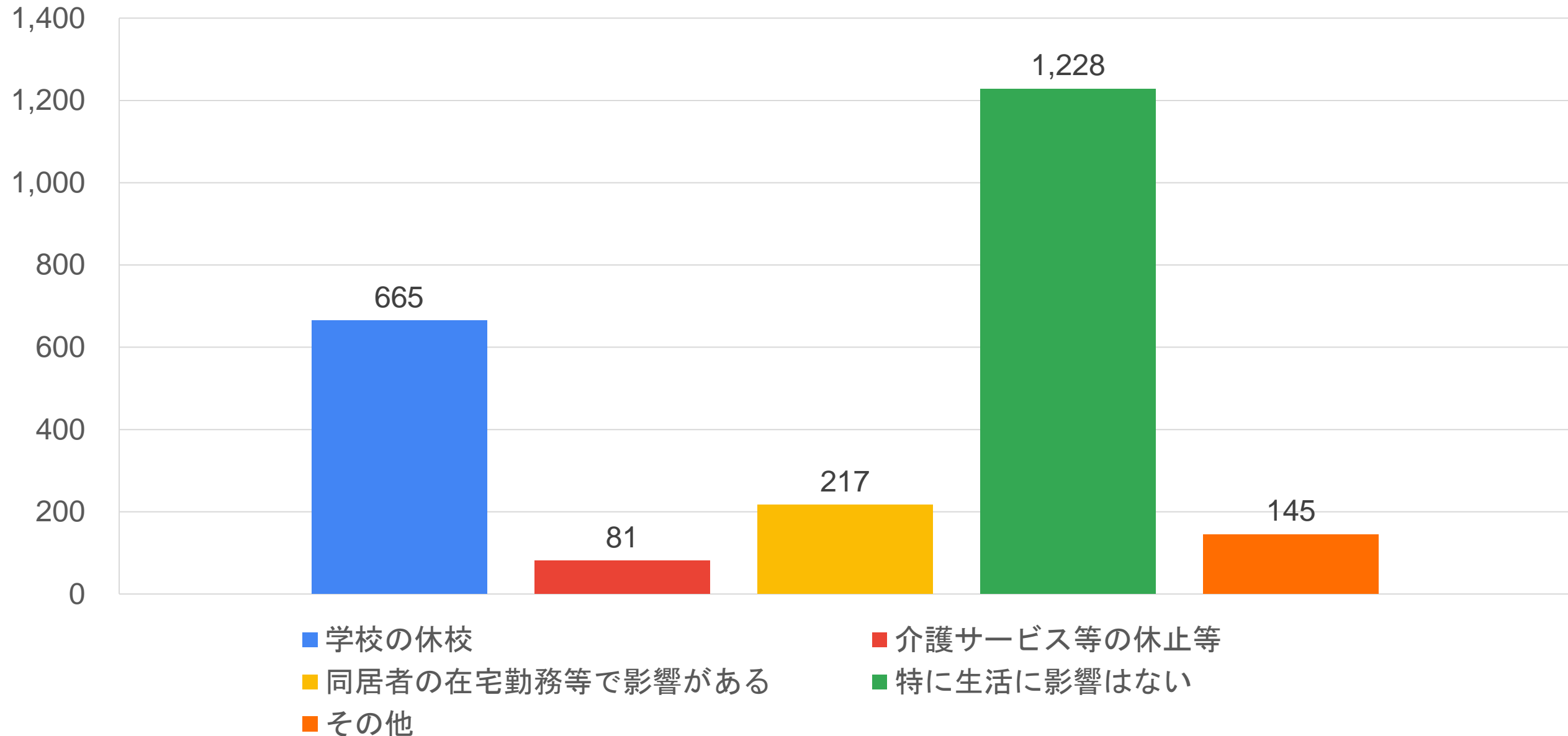
※複数回答



感染拡大前と仕事の上では特に変化なしとの回答が最も多かった。

2.(3)生活面での影響

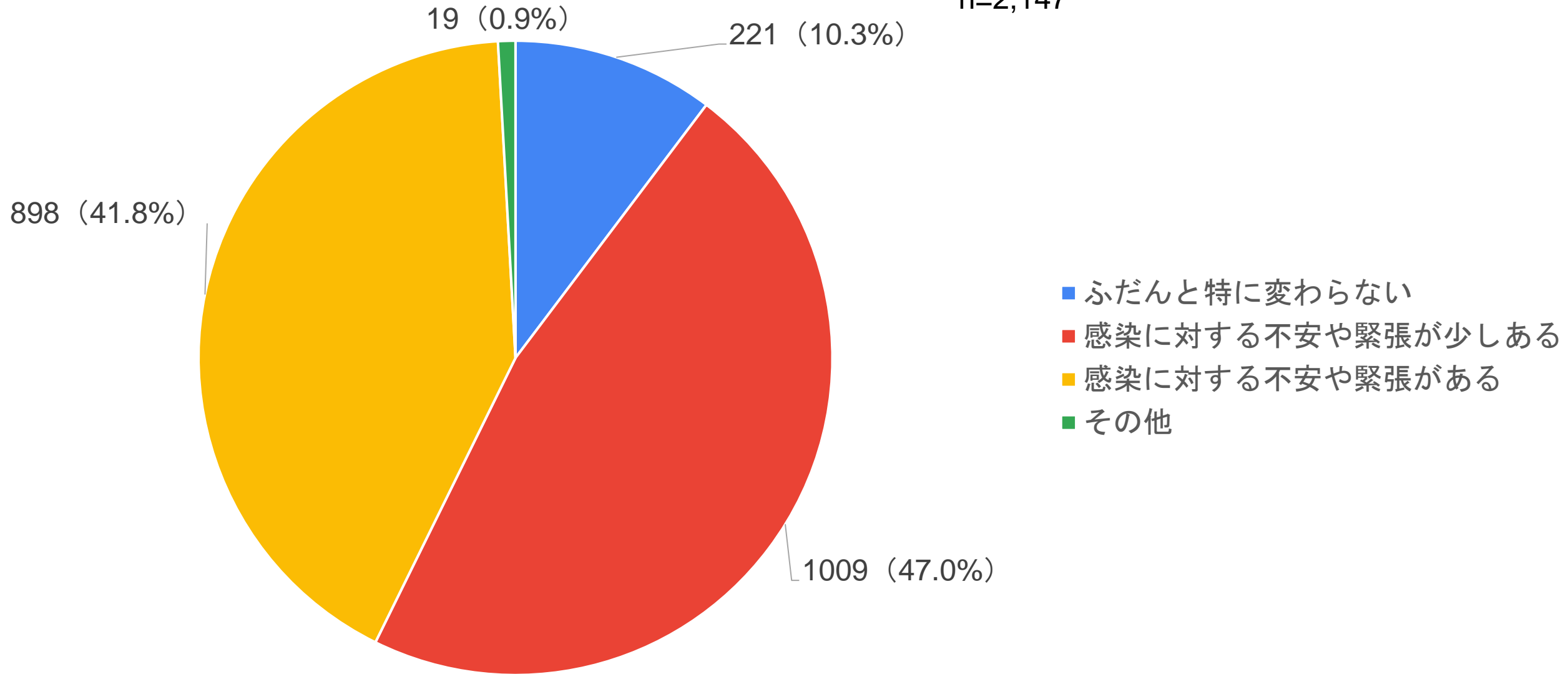
※複数回答



生活面での影響はないとの回答が最も多かったが、学校の休校を影響としてあげる回答も相当数あった。

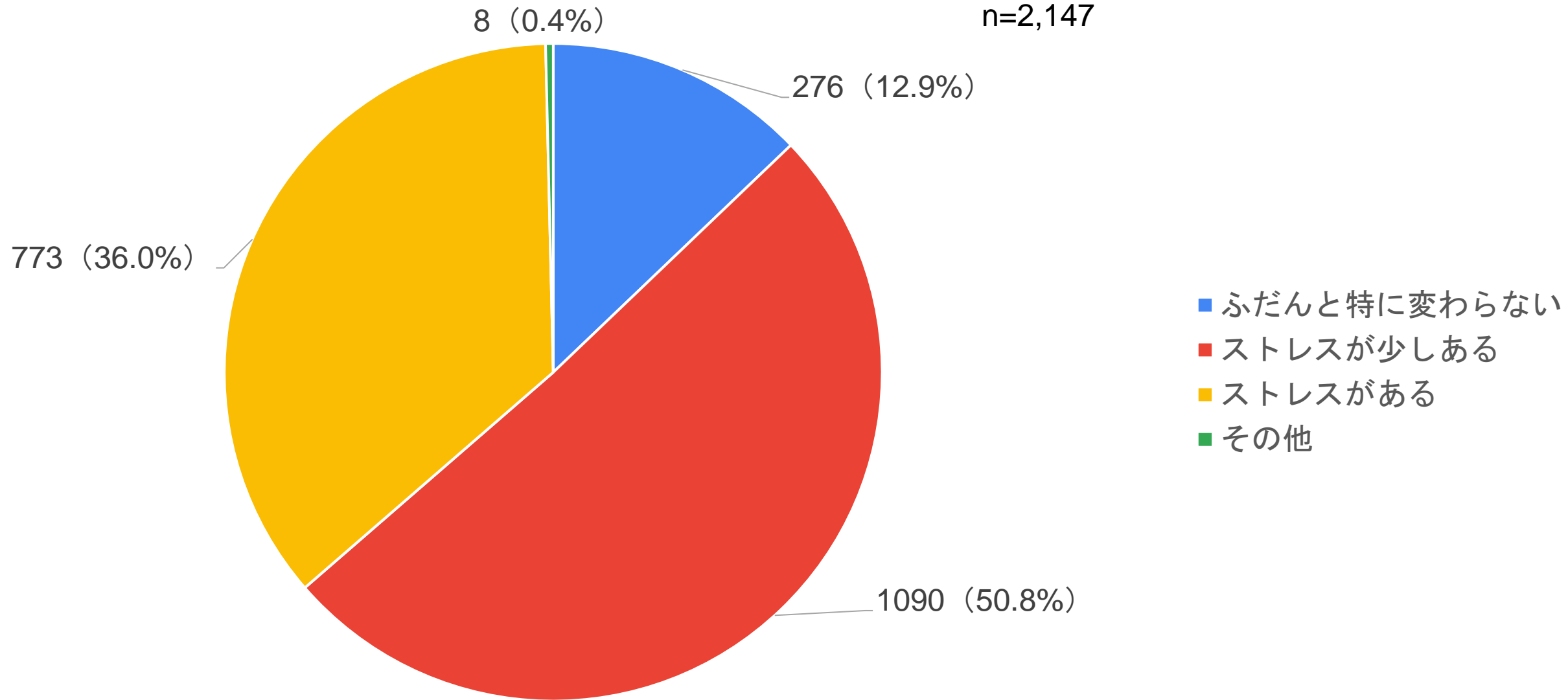
2.(4)-a.精神面での影響（業務について）

n=2,147



不安や緊張が少しある、ある、との回答が90%を占め、業務に関係して精神面に何らかの影響を及ぼしていた。

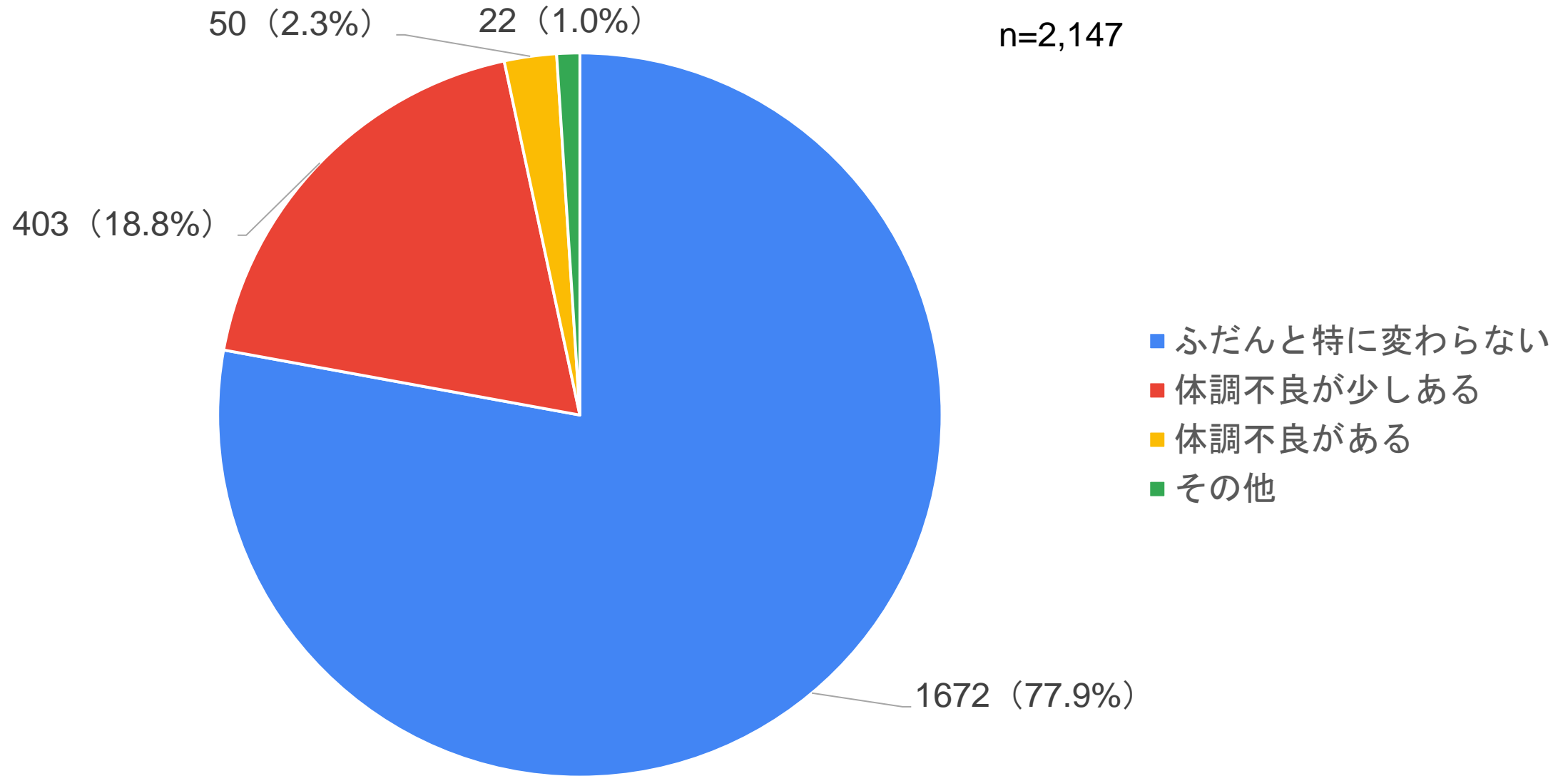
2.(4)-b.精神面での影響（活動自粛について）



活動の自粛についてストレスが少しある、あるとの回答は87%を占めた。

2.(5)身体面での影響

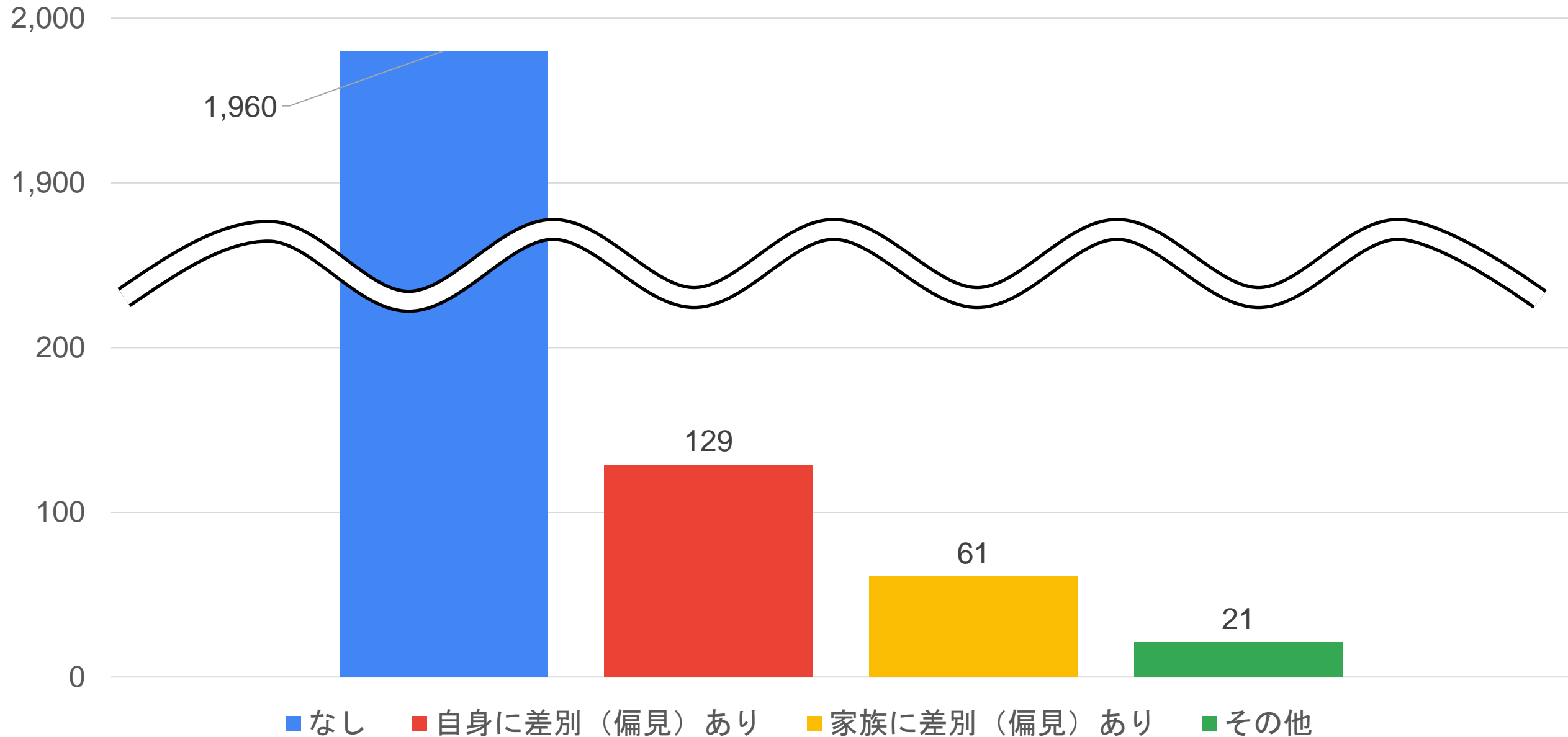
n=2,147



身体面への影響は特に変化ないという回答が最多であったが、体調不良が少しあるという回答も19%あった。

2.(6)医療従事者であることによる差別や偏見

※複数回答

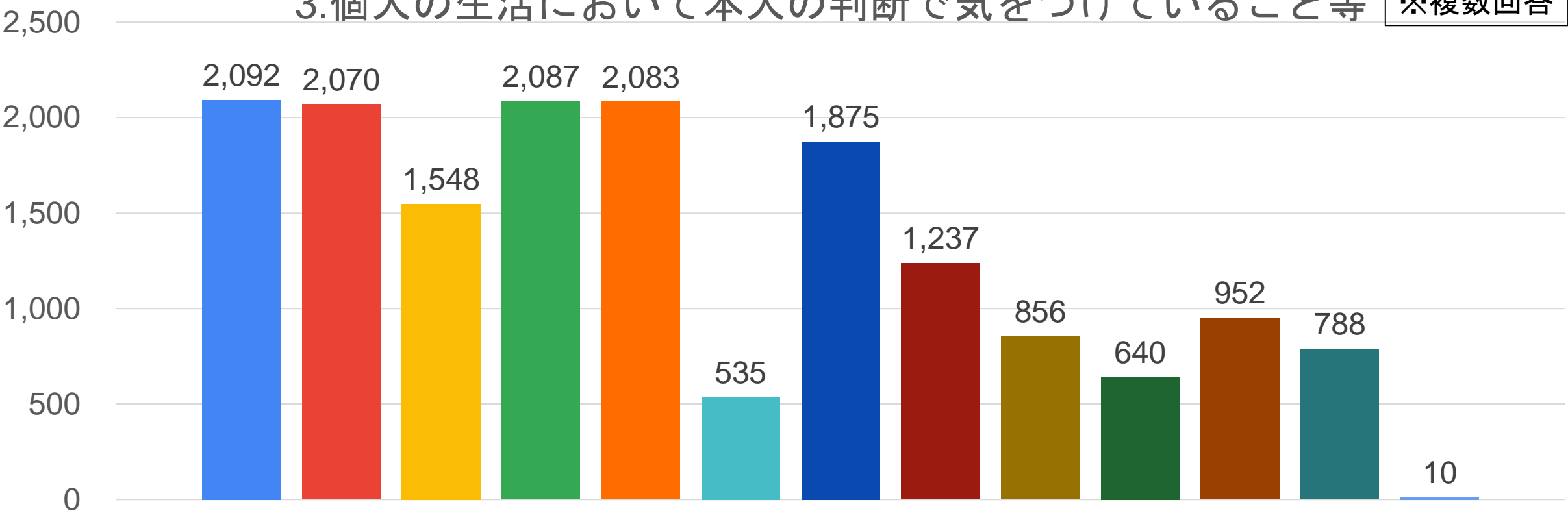


自身あるいは家族に差別や偏見があるという回答が全回答の約9%にのぼった。

3. 個人の生活において
本人の判断で気をつけていること等

3.個人の生活において本人の判断で気をつけていること等

※複数回答



■ 不要不急の外出を控える

■ 睡眠、食事をしっかり取り、抵抗力をつける

■ こまめに手洗い、手指（アルコール）消毒を行う

■ 検温をしている

■ 感染が疑われた場合の連絡先を確認している

■ ストレスや不安感を軽減させるよう、自分なりの対処をしている

■ その他

■ 3密（密接、密閉、密集）を避ける

■ 外出時はマスクを着用する

■ 帰宅後にシャワーを浴びる

■ COVID-19について、科学的に正確な情報を収集する

■ 自身や家族が感染した場合の対策を講じている

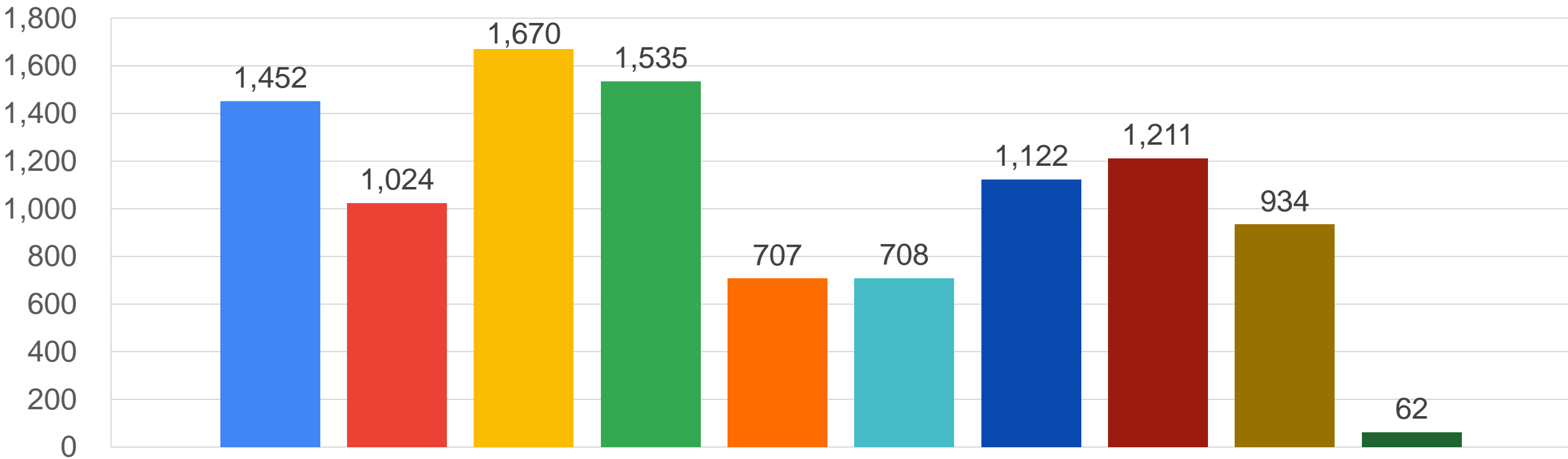
■ 相談できる人がいる

外出自粛が最も多く、次いでマスクの着用、手洗い、3密を避ける、検温などと続いた。

4.所属する施設での対応状況

4.(1)本件に対する組織体制

※複数回答



■ COVID-19 感染症に関する対応部署（例：感染症対策委員会等）がある

■ 対象者または職員の感染疑いの場合の対応策が決まっている

■ 集団感染が発生した場合の対応策が決まっている

■ 施設全体の感染情報（感染者、発熱者の有無等）が日々把握されている

■ 個人防護具（PPE）の使用基準や使用方法が周知されている

■ 部門ごとに感染症対策の責任者を決めている

■ 対象者または職員が感染した場合の対応策が決まっている

■ 感染症者が発生した場合のリハ/言語聴覚療法介入の基準を決めている

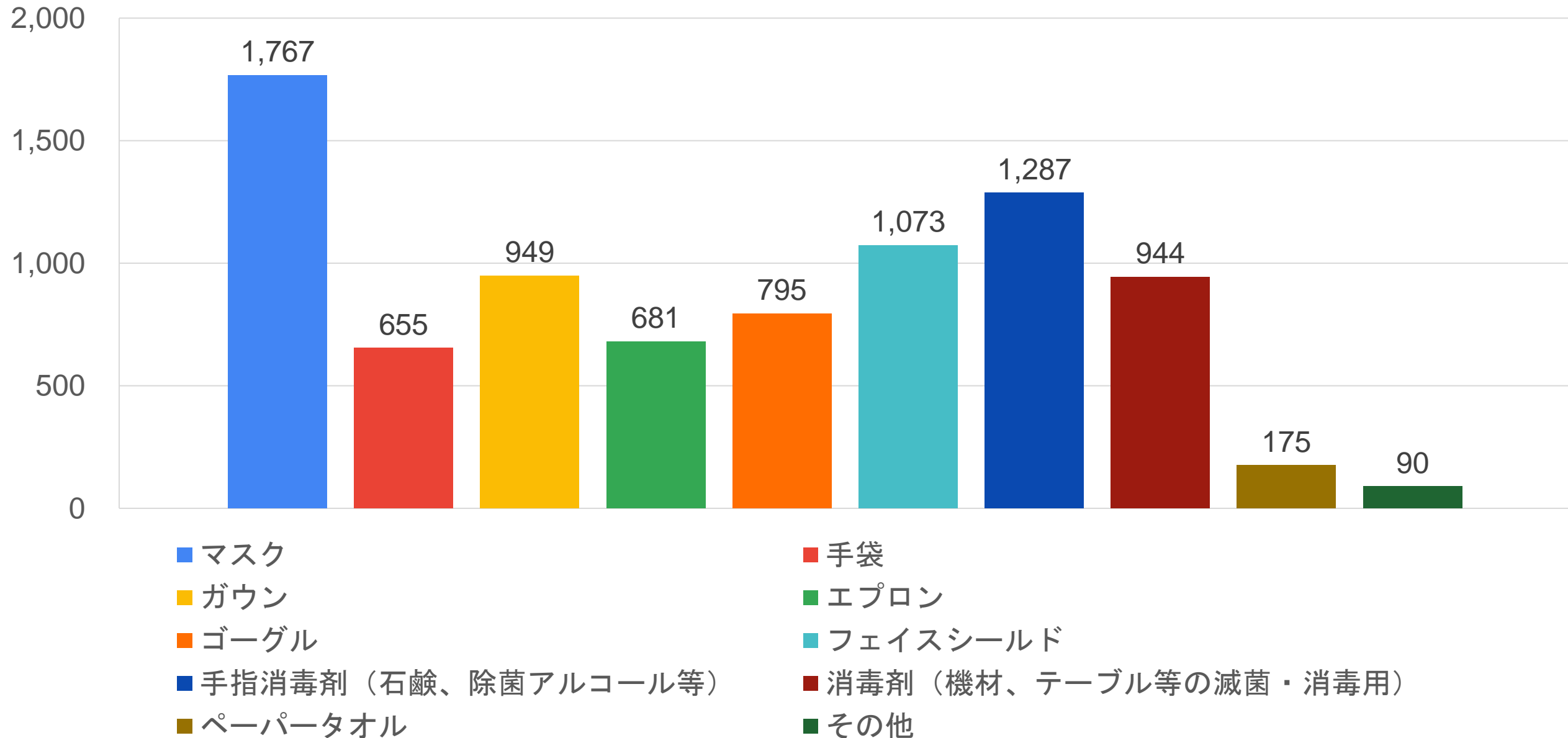
■ 組織としての対応が周知・共有されている

■ その他

感染者が出た場合、感染の疑いがある場合などの対応が決まっている、感染症の対応部署が決まっている、などが上位を占めた。

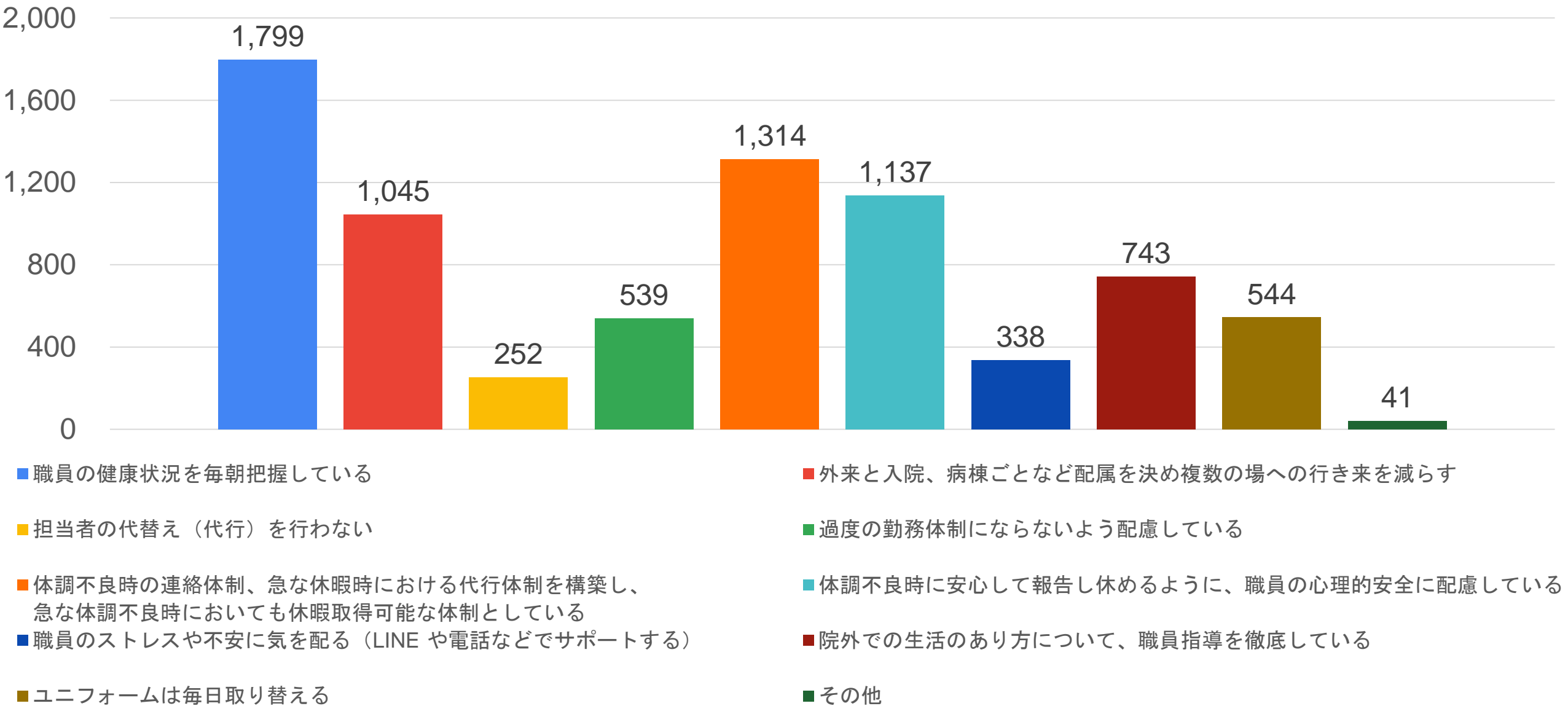
4.(2)不足している個人防具（PPE）や消耗品

※複数回答



4.(3)部門の管理

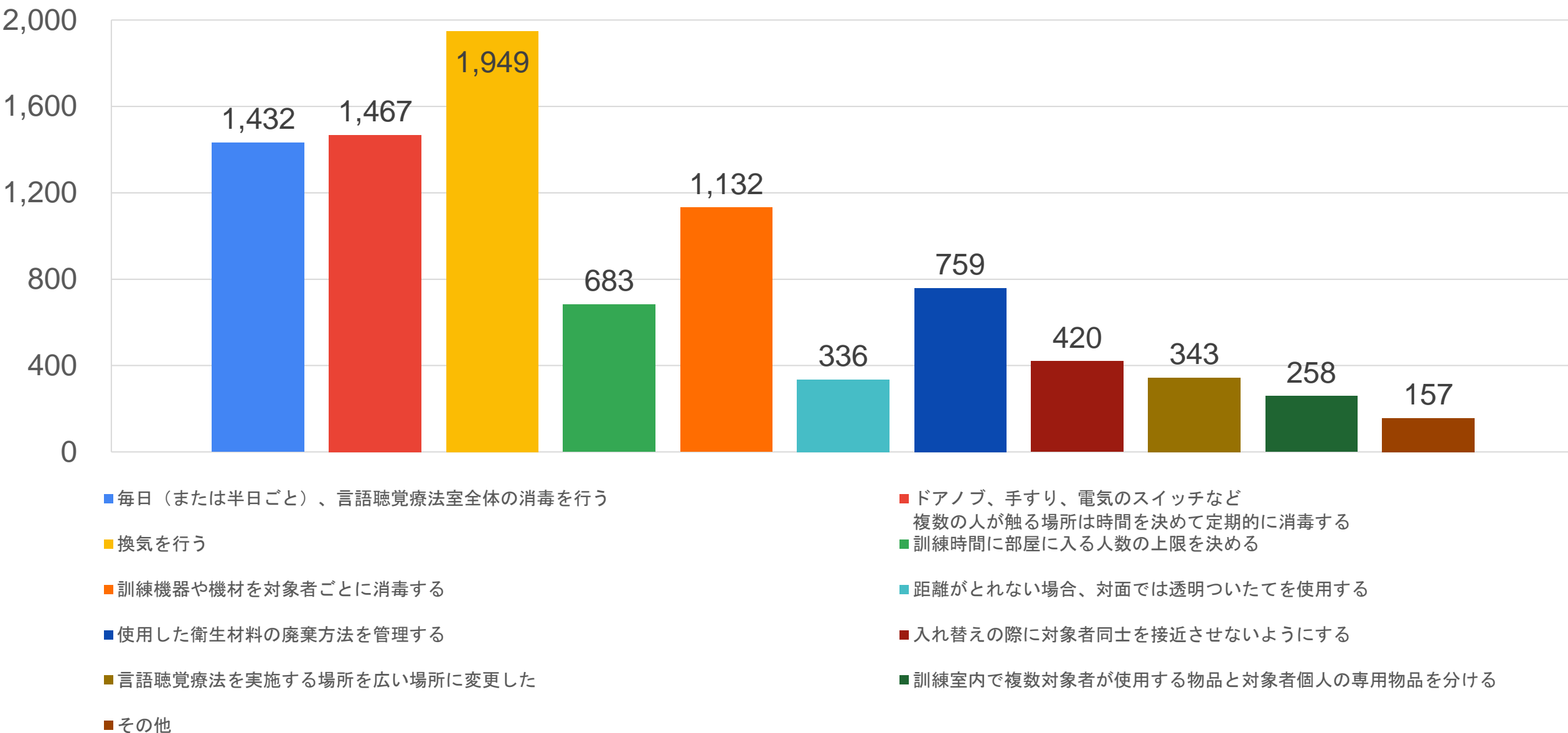
※複数回答



職員の健康状況の把握、体調不良職員への対応、職員の心理的安全性への配慮、病棟担当制などの配慮などが多く行われていた。

4.(4)-a.環境の管理（言語聴覚療法室）

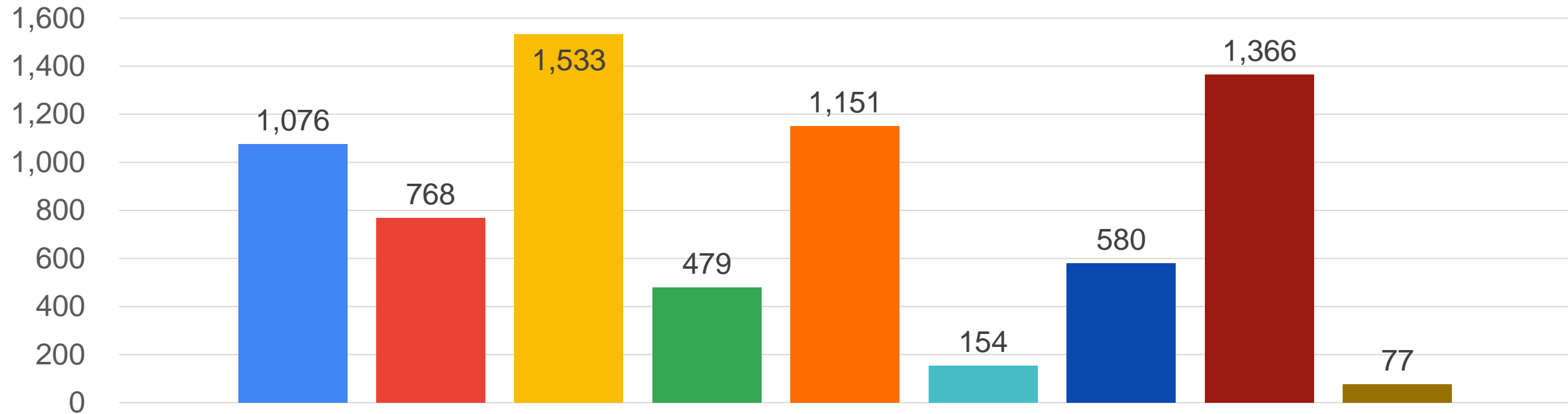
※複数回答



3密になりやすい言語聴覚療法室では換気が最も留意されていることであった。

4.(4)-b.環境の管理（スタッフルーム）

※複数回答

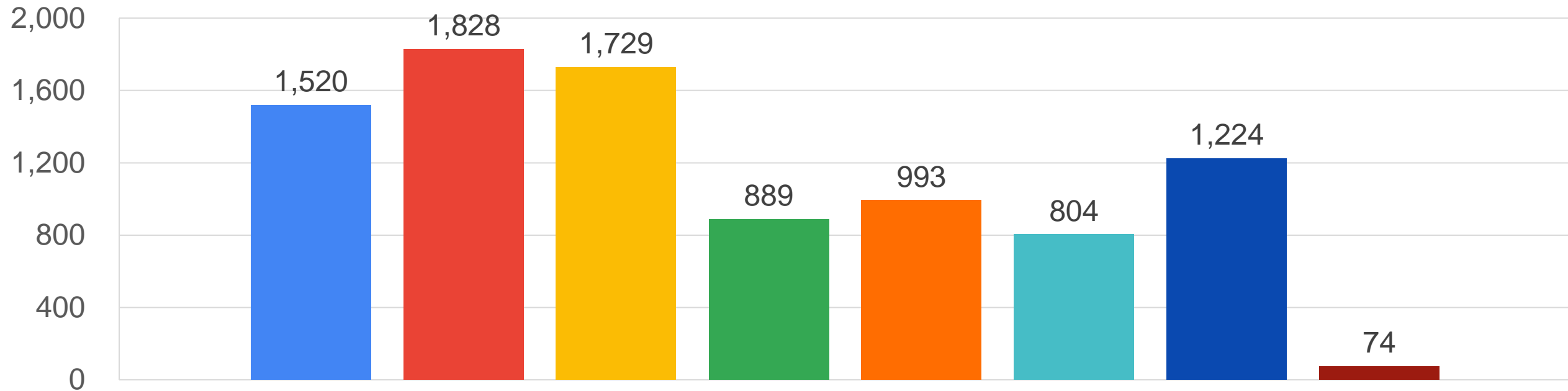


- スタッフルームに入退室するたびに手洗いまたは消毒をする
- 事務作業の時間帯をずらす等、人が集まらないようにする
- 定期的に時間を決めて換気をする
- 仕事以外の会話は控える
- 昼食時も会話は控え、食後にマスクをしてから話す
- デスクが向かい同士の場合、間に透明シートなどを吊り下げて仕切る
- ミーティング等は各部門の管理者のみで行う、ICT（テレビ電話等）で行う、必要事項のみLINEで送る等の工夫をしている
- 電話、キーボード、マウス、ポット、ドアノブ、水道、冷蔵庫の取っ手等、共有するものを消毒する
- その他

換気、共有するものの消毒、会話を控える、手洗いが最も留意されていた。

4.(5)-a.対象者へ接する際の対応（個別の言語聴覚療法場面）

※複数回答

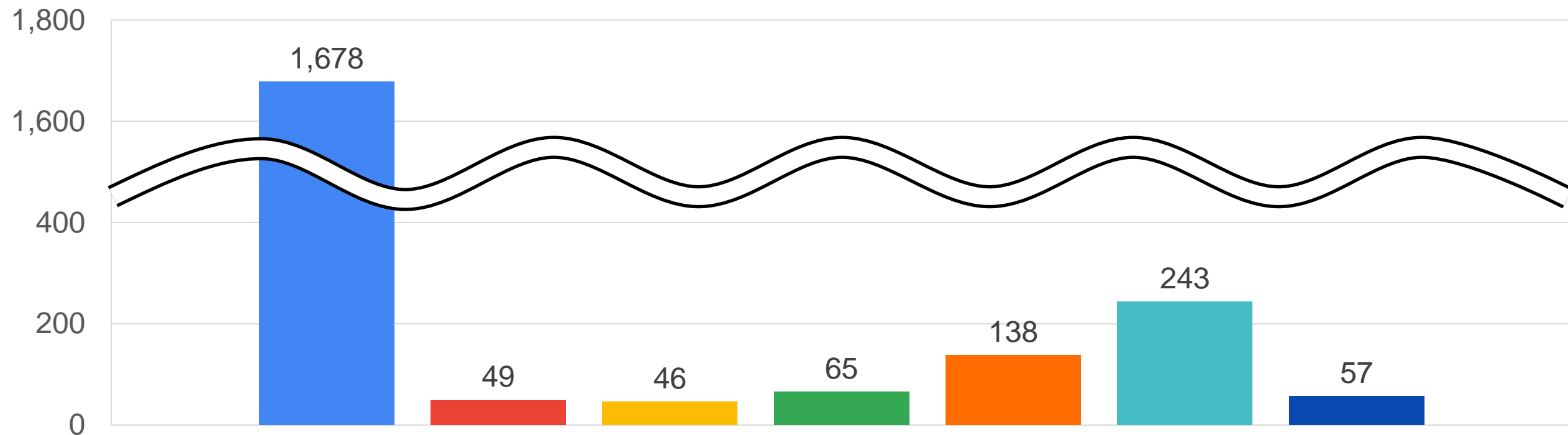


- 訓練前の体温や体調確認をする
- 必ずマスクを着用している
- 個別の言語聴覚療法実施の前後、手洗いまたは手指消毒を行っている
- 対象者自身の手洗いまたは手指消毒を実施している
- 対象者にマスク着用を促している
- Disposable type の手袋を着用し、1 対象者ごとに取り換える
- 使用した訓練機材、評価機材は、利用後アルコール消毒を行う
- その他

マスク、手洗い、体調確認、器具の消毒などがよく行われていた。

4.(5)-b.対象者へ接する際の対応（集団の言語聴覚療法場面）

※複数回答

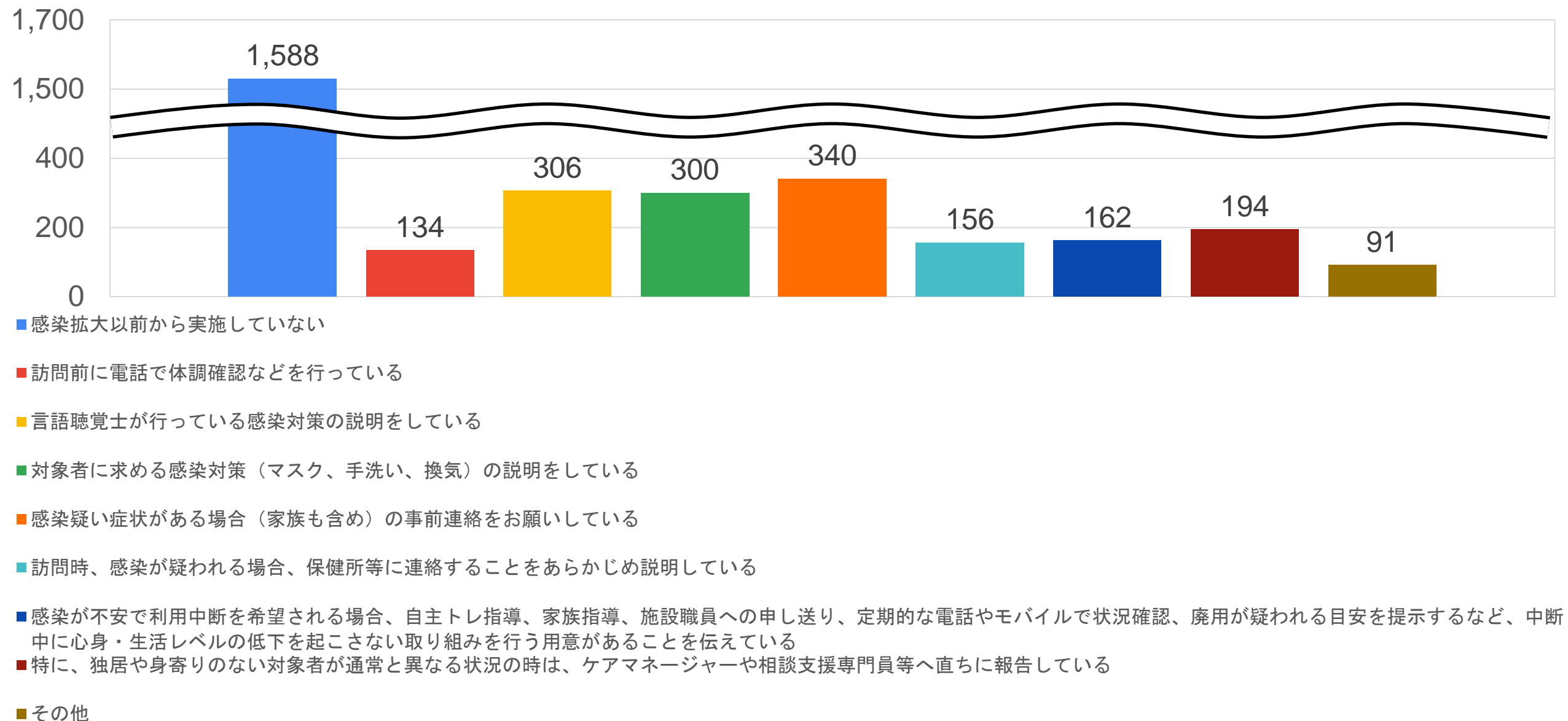


- 感染拡大以前から実施していない
- 集団コミュニケーション療法はCOVID-19感染拡大前と変化なく実施
- 集団コミュニケーション療法の回数の制限
- 集団コミュニケーション療法の人数の制限
- 集団コミュニケーション療法実施時に3密を避ける工夫をしている
- 集団コミュニケーション療法の中止
- その他

集団の言語聴覚療法は感染拡大以前から実施していないとの回答が最も多かった。
集団を中止した施設は243施設あった。

4.(5)-c.対象者へ接する際の対応（訪問の言語聴覚療法場面）

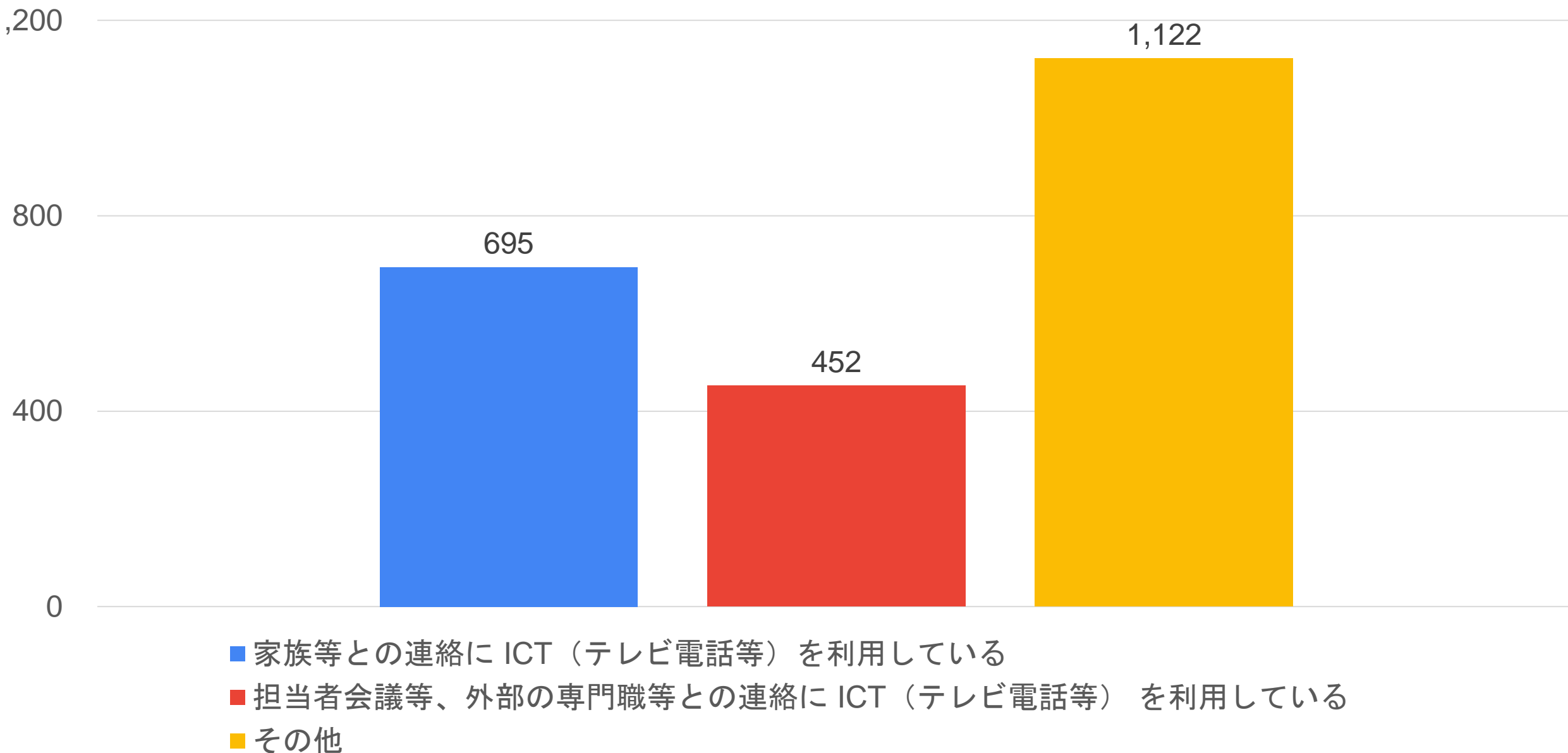
※複数回答



訪問を感染拡大以前から実施していないとの回答が最も多数を占めた。
 感染の疑いがある場合は事前の連絡をお願いしている施設は340施設あった。

4.(5)-d.対象者へ接する際の対応（その他の場面）

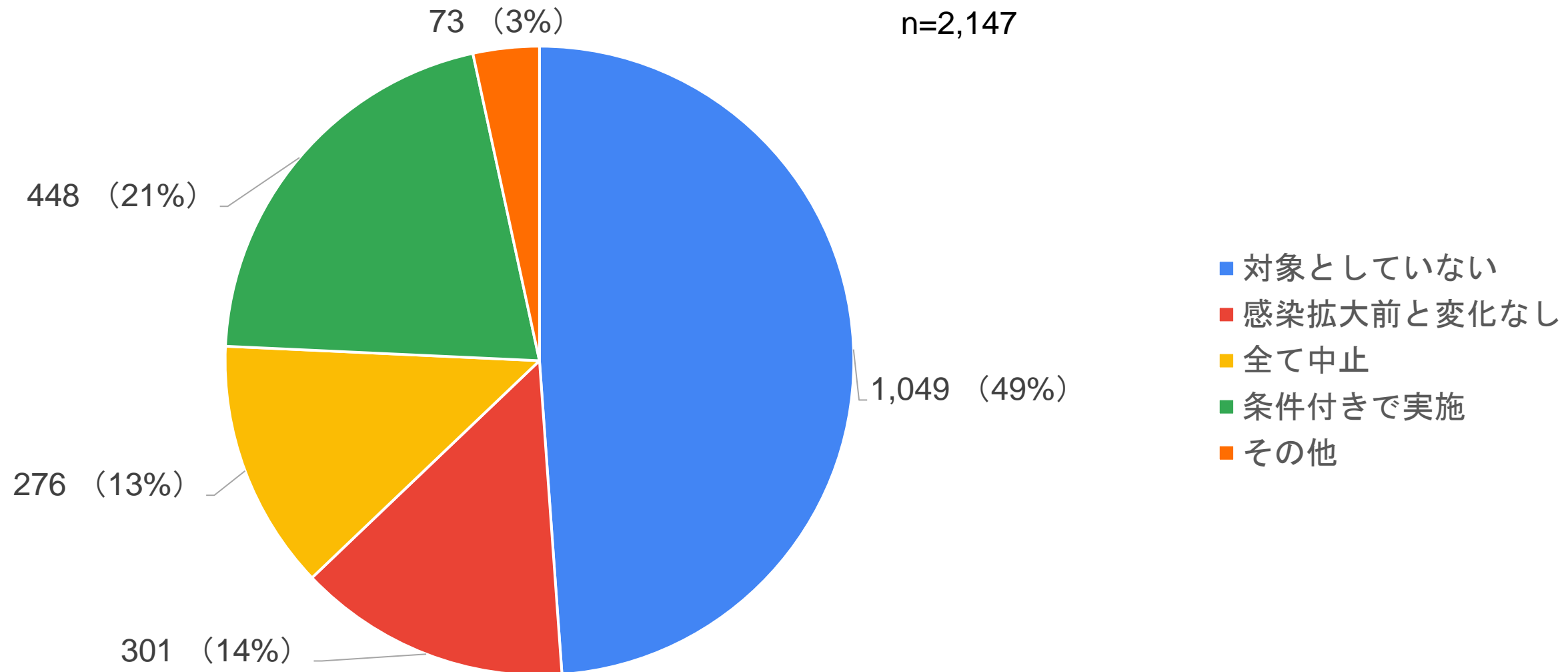
※複数回答



ICTを家族との連絡、担当者会議などに用いているとの回答は全体の約半数であった。

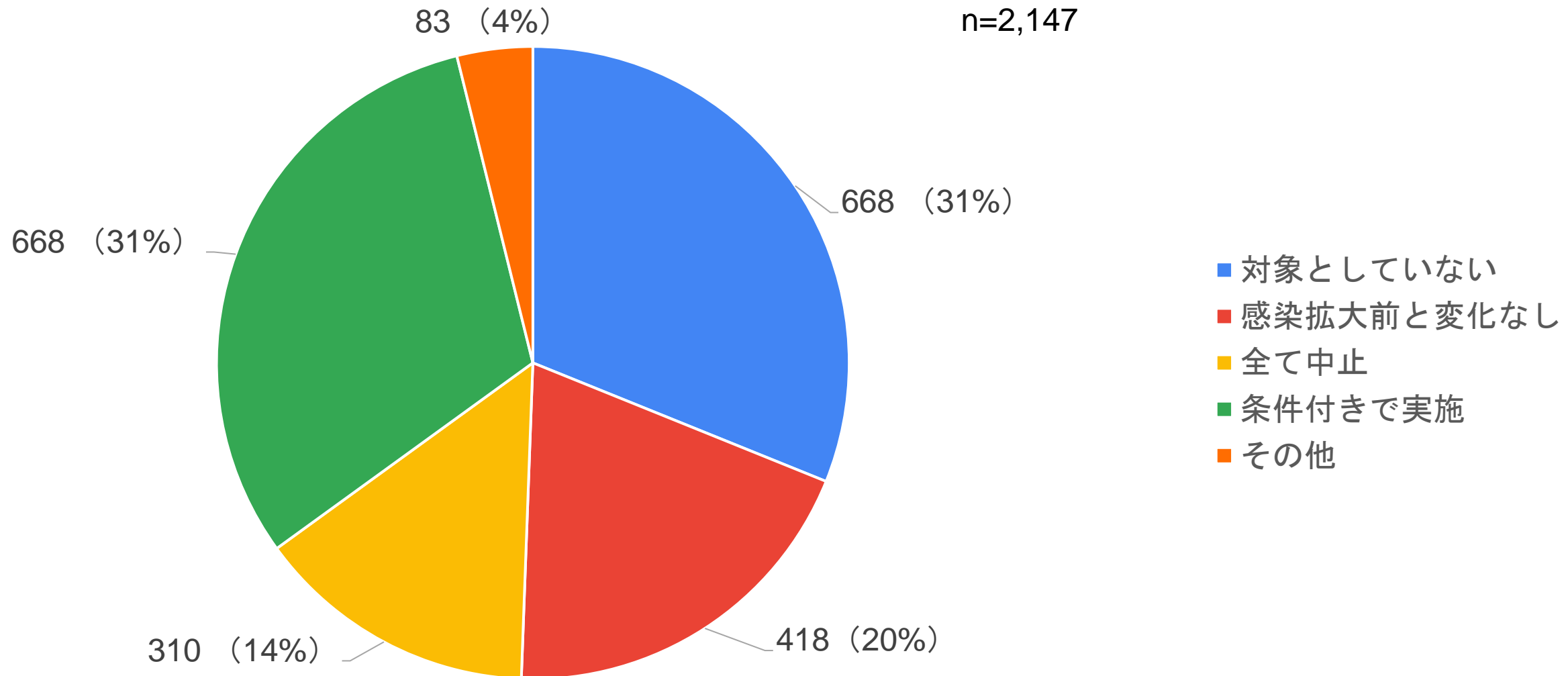
5. 言語聴覚療法の実践について

5.(1)-a.言語聴覚療法に実施について ＜外来患者への対応＞【摂食嚥下障害】



外来患者には対応していないとの回答が約半数を占め、感染拡大後も21%は条件付きで実施していた。

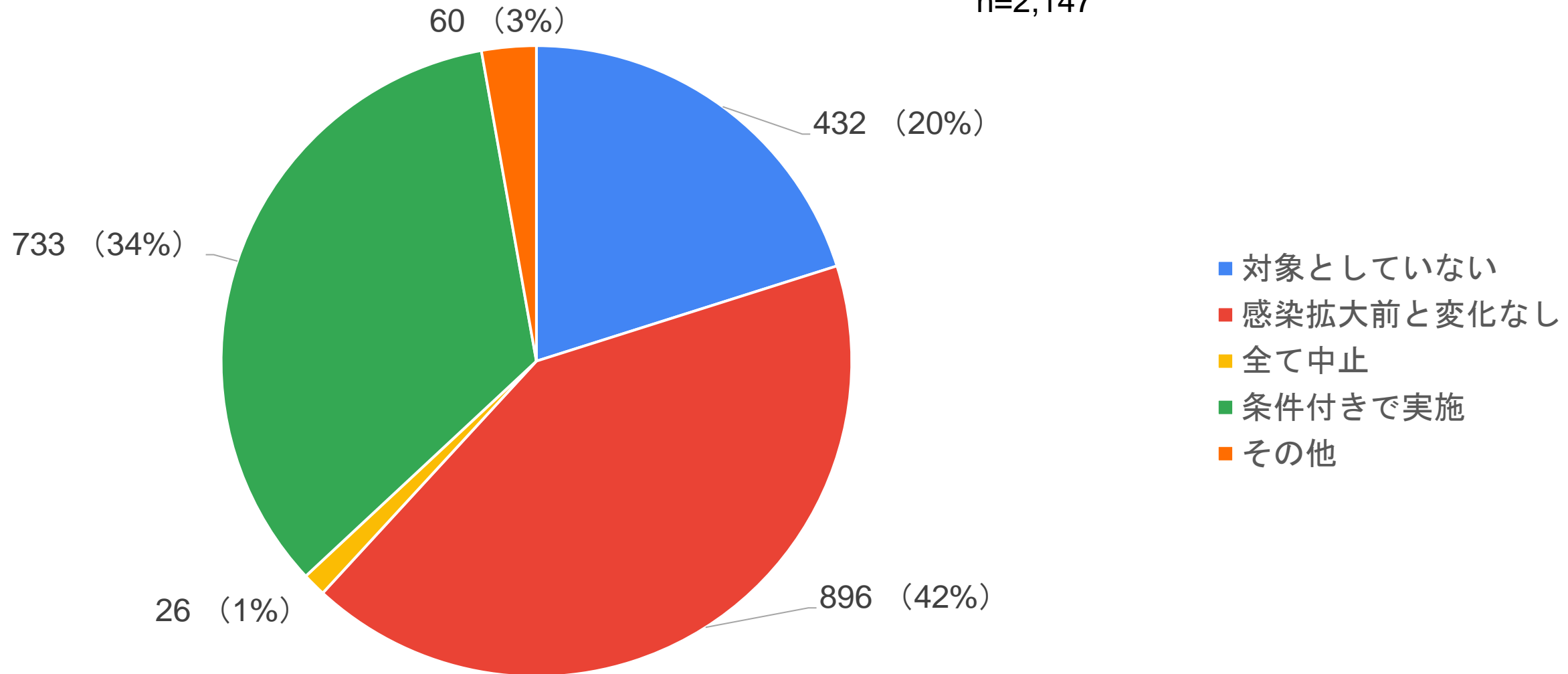
5.(1)-b.言語聴覚療法に実施について ＜外来患者への対応＞【言語聴覚障害全般】



言語聴覚療法全般では外来を実施していないとの回答が31%、条件付きで実施との回答も31%であった。

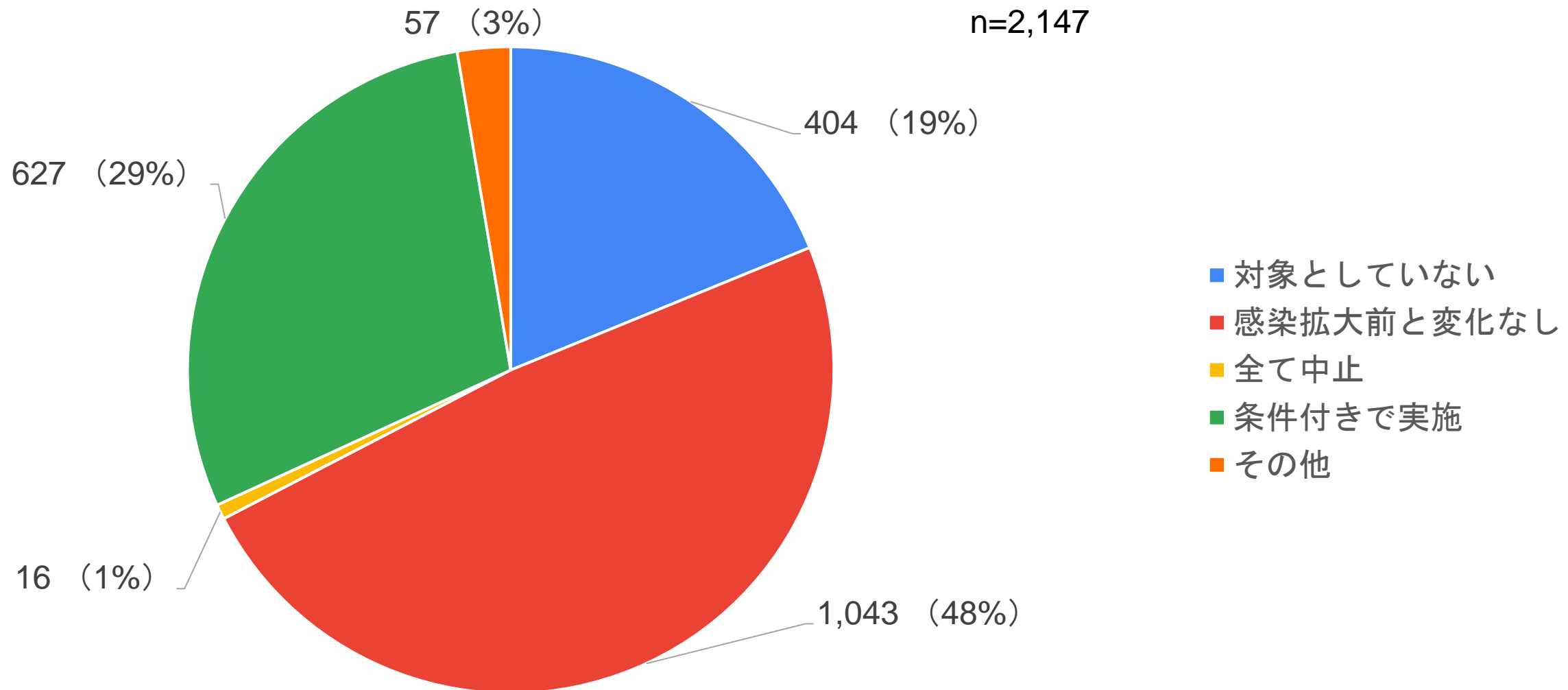
5.(1)-c.言語聴覚療法に実施について ＜入院患者への対応＞【摂食嚥下障害】

n=2,147



入院患者は外来と異なり、感染拡大前と変わらず、あるいは条件付きで、言語聴覚療法は実施されていた。

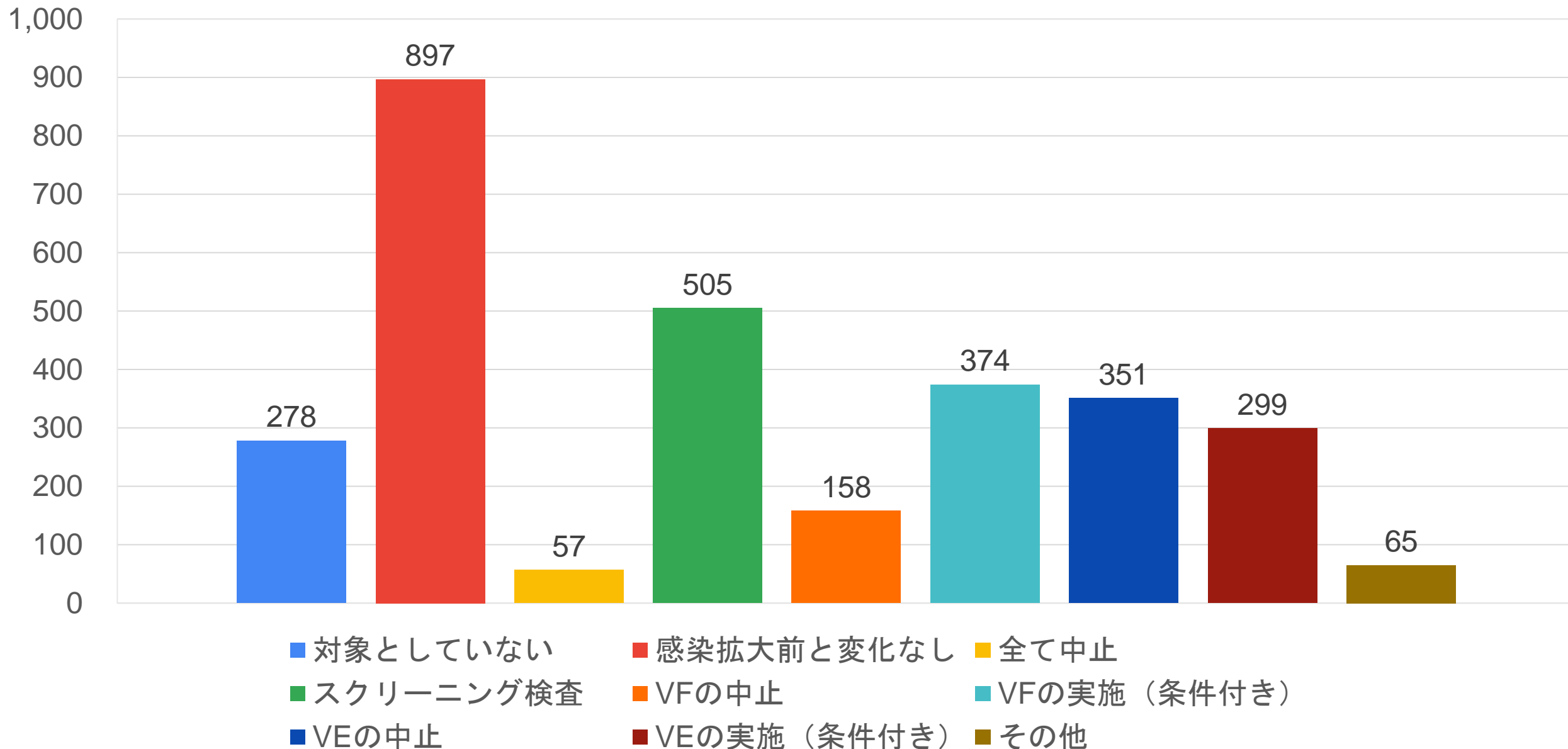
5.(1)-d.言語聴覚療法に実施について ＜入院患者への対応＞【言語聴覚障害全般】



入院患者に対してはほぼ感染拡大前と同様の実施されているのが48%を占め、次いで条件付きの実施は29%で合わせると77%は実施されていた。

5.(2)-a.検査の実施について【嚔下機能評価】

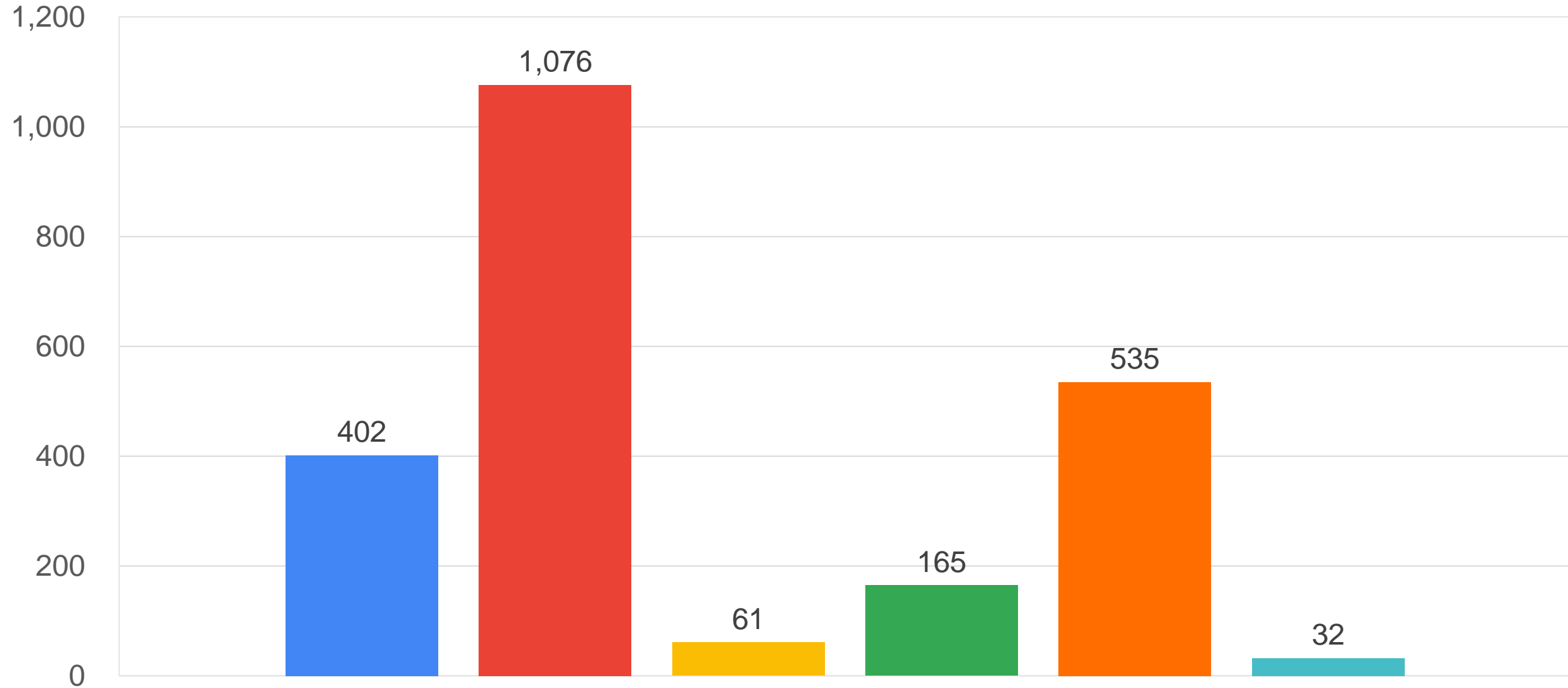
※複数回答



感染拡大前と変化ないとの回答が最多である一方、検査を条件付きで行うなどの回答も見られた。

5.(2)-b.検査の実施について【音声言語機能評価】

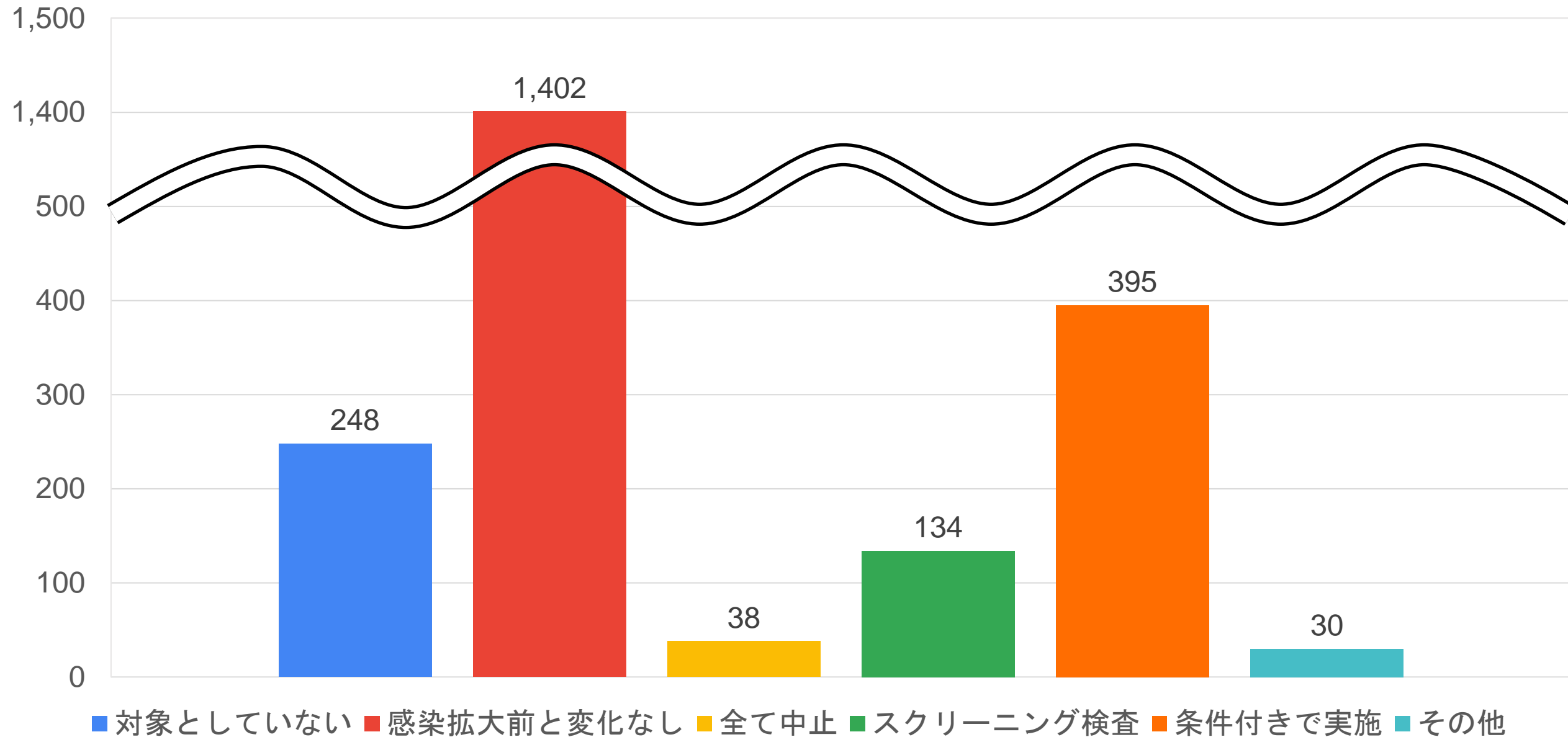
※複数回答



■対象としていない ■感染拡大前と変化なし ■全て中止 ■スクリーニング検査 ■条件付きで実施 ■その他
音声言語機能の検査は半数が感染拡大前と変化なしと答えている一方、条件付きで実施という回答も見られた。

5.(2)-c.検査の実施について【認知機能検査】

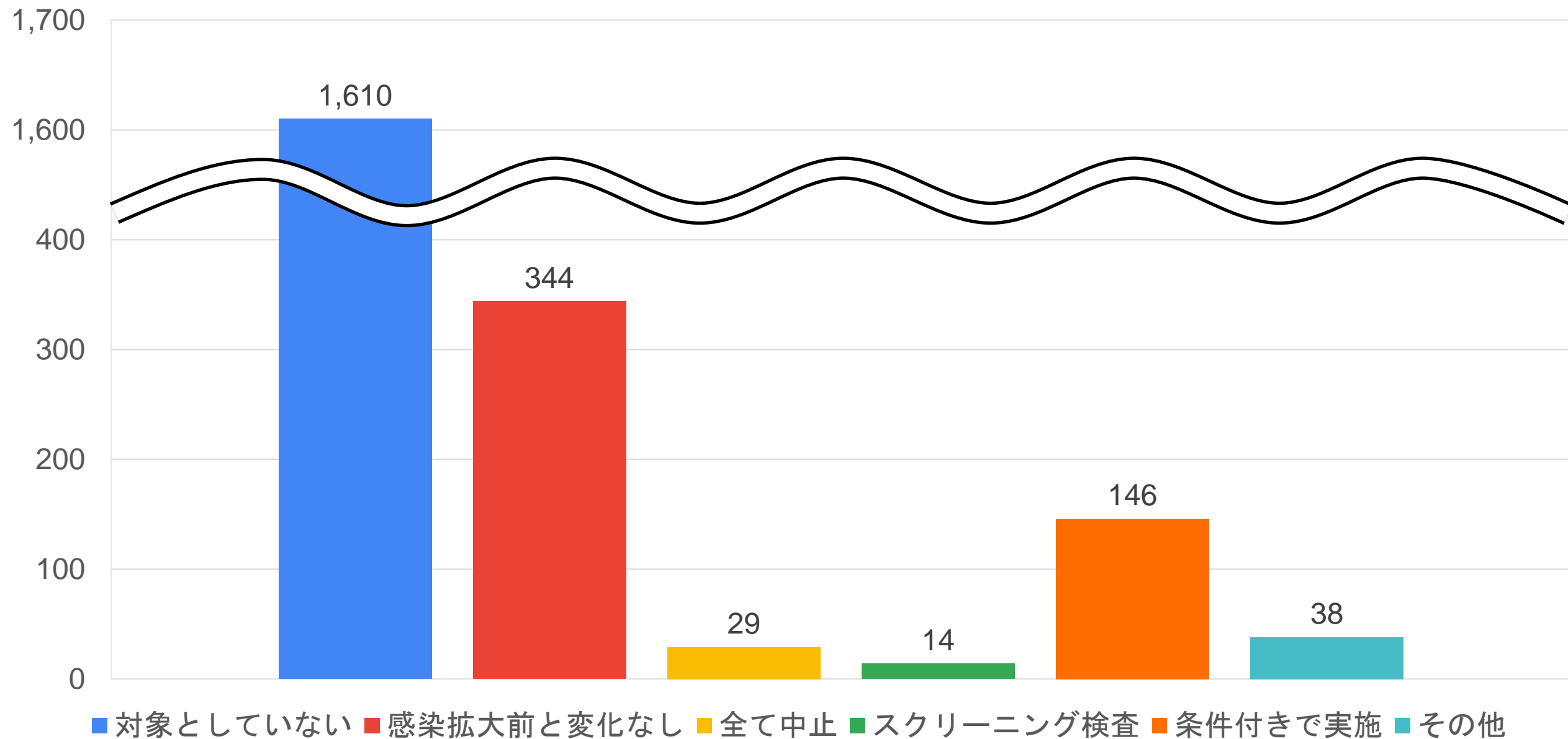
※複数回答



認知機能検査では感染拡大前と変化ないとの回答が多くみられた。

5.(2)-d.検査の実施について【聴力検査】

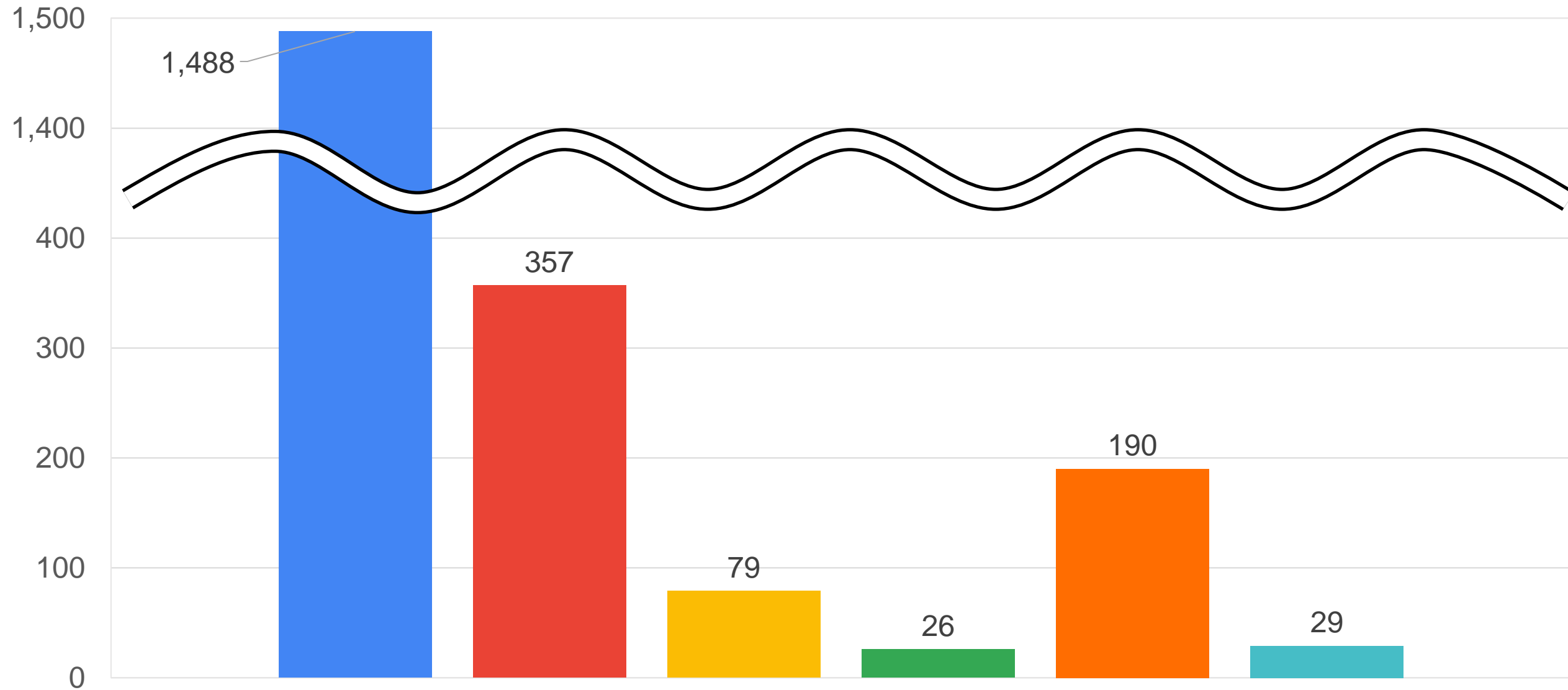
※複数回答



対象としていないとの回答が最多であることが注目された。

5.(2)-e.検査の実施について【発達検査】

※複数回答



■ 対象としていない ■ 感染拡大前と変化なし ■ 全て中止 ■ スクリーニング検査 ■ 条件付きで実施 ■ その他

発達検査も対象としていないとの回答が最多であった。対象障害による差異が認められた。

その他と自由記載の内容について

各設問のその他の内容や【問5 言語聴覚療法の実践について】
【問6 課題や要望】の自由記載の部分につきましては、結果を
集計中です。

なお、明らかな誤りについては修正していますので、今後も数値
が多少変わる可能性があることをお断りいたします。